

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。これらのことを、ZOOMを活用して行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度が高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述を見ると、内容的に難しかったものの、本授業の目標は達成できたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語教員養成課程の履修生にとって2番目に受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、極めて限定されている。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。ほぼゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業をZOOMで行い、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをグループで話し合い、その話し合いを全体で共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度が高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は、それ程行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

遠隔授業という条件下で、できるだけ学生と会話する時間を取るよう努めた結果が、アンケート調査の点数に表れていると思われる。学生による自由記述も、非常に肯定的なものが多い学生の理解度の把握と、それへの適切な対応と通しての「つながり」の拡充を、今後も継続していきたいと考えている。唯一の改善点は、動画視聴の際の音声と映像のタイムラグの問題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していいと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1年次と2年前期に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業である。1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業をZOOMで行い、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをグループで話し合い、その話し合いを全体で共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、学生の達成度・満足度の高い授業であったと判断される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、「1年次と2年前期に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験する」という授業のデザイン・運営は、内容的妥当性が高かったと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

学生の授業評価アンケートや自由記述などから、本授業のデザイン・運営は高く評価され则认为られる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価され则认为られる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育実習	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育実習の教壇実習授業として、北九州YMCAでの授業を実施した。その中で、教壇実習授業の回数と授業時間を維持し、各実習生が授業を行う時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。本番は対面式で授業ができたのですが、事前事後指導は、主にオンラインで行うこととなった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、及び自由記述から、達成度・満足度の極めて高い授業であったと判断される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。「担当教員への意見」で記されている学生のコメントは、昨年同様、とても高い評価であった。これを励みに、さらなる授業の向上を目指したいと思う。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。「担当教員への意見」で記されている学生のコメントは、昨年同様、とても高い評価であった。これを励みに、さらなる授業の向上を目指したいと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、非常に高かったと考えられる。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語教科教育法Ⅲは、英語科教職課程の必修科目である。学生たちは、これまでの英語教科教育法Ⅰ・Ⅱでの学びを活かし、中学校英語教科書を使用して模擬授業に臨んだ。学生たちは各々事前に指定箇所の学習指導案や板書計画、配布資料等を作成し、模擬授業の準備に計画的に取り組んだ。学生らには授業中の発言なども多く求められるが、積極的に発言し授業に参加していた。</p> <p>受講生のコメントとして、「今年度はほとんどの授業が遠隔になってしまい、模擬授業をされる方の心配などもありましたが、今日無事に授業を終えることができてよかったです。それは、先生や模擬授業をされた方々が毎回しっかり準備してスムーズな授業をしてくださったおかげだと思います。」などの意見があり、コロナ禍での遠隔による模擬授業準備等で苦労した分、成長も大きい授業であったことがうかがえる。学生たちの努力と臨機応変な対応力にも感心している。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.7、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.5、「説明は理解しやすいものであった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。</p>					
* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.5、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.5と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および教科指導技術の向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分がが多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。また、来年度、教育実習に行く準備段階の科目でもあるので、実践的な内容になるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名であり、全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、二つの項目について一名の学生が「少しそうではないと思う」と回答していることを除いては、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、一つの項目について1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答しているのを除いては、どの項目についても全員が「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね目標は達成できたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教職に対して熱心な学生が多く、どの項目についても肯定的な項目に回答する学生が半数以上おり、最終的な成績も良好であった。一方で、ごく少数ではあるが、自己評価や授業の質評価や学習量の評価について、若干否定的な回答をする学生もいて、十分対応できなかった面があったと言える。特に、本年度は遠隔授業で模擬授業を行わなければならないため、試行錯誤の部分が多かったため、学生も戸惑ったことが多々あったと思う。また、模擬授業の実施について、学生との連絡がなかなか取りにくい部分もあり、スムーズにいかないところもあった。オンラインで実施する際の留意事項などが明らかになったので、次年度は予めそれらの項目については留意したいと思う。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3~4	三期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、教職課程を履修している学生が3年後期から4年後期にかけて履修する科目であり、教育実習がより効果的に実施できるように、その事前事後に履修することになっているものである。そのため内容は、中学校、高等学校の英語教員による講演を聞いたり、教育実習に行った先輩の話の聞いたりした後討論を行ったり、模擬授業を行い、互いに講評したりするなど、実戦に即したものになるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準レベルを超えており、到達度自己評価についても全員が肯定的な回答をしていることから、教育目標を達成できたと考える。毎回レポートの提出が義務付けられており、全員提出し内容も基準を満たすものであった。また、模擬授業の実施や教育実習についての報告もきちんと行うことができた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。"</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価について、全員がすべての項目について肯定的な回答をしている。ご講演をしてくださった外部講師の先生方の熱心なお話によるものも大きいと思うので、引き続き中学校や高等学校の先生方に来てお話ししていただきたいと考えている。特に、本年度は遠隔授業であることを活用して、通常であれば講演していただくことが難しい、関東や関西、そして海外の先生にもご講演いただくことができたことは、学生にとっては普段聞くことのできない話を聞くことができて良かったと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の意欲も高く、教育実習の前後に行う科目であるので学生の目的意識も高い。また、模擬授業を行ったり、それについての講評を互いに行なったりするため、学生が主体的に取り組む場面も多い。そのようなことから目標の達成度も高い。一方で、遠隔授業により、学生同士の交流が持ちにくかったため、対面授業とは異なる活動を考える必要がある。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（中・高）	4	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教職課程を履修している学生にとっての必修科目で、それ以外の学生は履修していない。よって、受講生の受講動機や学習準備業況には大きな開きがないので、共通の目標や内容をもって指導するよう準備した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、全員が概ね理想的レベルに達しており、目標は達成できたと考える。また、到達度自己評価についても二つの項目について1、2名が「わりにそうだと思う」と回答した以外は、全ての項目について「かなりそうだと思う」と回答しているので、教育目標は概ね達成できたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容的妥当性 本科目は、教職課程の必修科目であり、教育実習での学びを深めるための科目である。受講生は教育実習で一定の成果を上げ、本科目においても概ね良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 教育実習の評価や本科目の成績評価から、態度、技能表現について一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。"</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>一部の学生が二つの項目について「わりにそうだと思う」と答えたのを除いては、「かなりそうだと思う」と回答しており、全員が肯定的な回答であった。本来であれば、授業の中で学生が主体的に参加する割合が多い講座で、ほとんどの学生が比較的積極的に参加していたが、遠隔授業のため学生同士が活発に意見を交換するのが難しい面もあった。教室で実施する場合と異なる課題を工夫したいと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>すべての学生が一定以上の成績を得られたことから、この科目が一定の成果を上げたということが言えると考え。遠隔授業であるため、授業者にとっても学生にとっても困難な面があったが、学生の評価も成績も良好であった。遠隔授業ではやりにくい内容については、次年度は異なる方法で実施したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅳ	4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は英語通訳ガイドの資格を取得するのが第一の目的である。その一方で、これまでの経験上、受講生全員がそうした目的意識をもって履修しているわけではない。そうした点をふまえて、本年度は通訳ガイドとはホスピタリティーをとまなう仕事である点も勘案し、通訳ガイド的要素が求められる職業の現場で求められる英語を取り扱うことにした。また受講人数が少ない授業環境だったため、個々の学生と直接対話する時間をできるだけ多く取り、双方向性の高い授業を意識して行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習意欲が旺盛で、積極的に発表を行うなどすべての点において教育目標は達成された。ほとんどの受講生とは2年生から他の科目でも接点があったため、非常に双方向性の高い授業を行うことができた。授業貢献度は配点の20点を超える平均24.3、中間試験の平均点は30点満点で21.5、定期試験は31.8（50点換算）で、全体を通して教育目標は達成された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>英語通訳ガイドを含めた通訳という職業（会議通訳者、放送通訳者、同時通訳者、ボランティア通訳者など）は、言語を駆使する専門技術職である。したがって、ある程度の英語力が備わっていることが大前提で、そのスキルを現場で瞬時に最大限活用できるかどうかで、本人に対する評価が決まる。よって、DP5が示す技術表現と本科目は最も重要な接点であるといえる。学生の到達度自己評価において、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、については「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択していた。また、DP3の内容関心についても、授業評価における受講動機で、全員の学生が③関心のある内容を選択していることから、本科目の位置づけ上、内容的に妥当という結論に至った。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>受講生が全員4年生という点を意識して、通訳の現場を含めたさまざまなビジネスの世界で起こっていることや、自らの経験を授業の中で紹介したことは、非常に学習効果があった。また受講生の学習意欲や知識・技能の習得がダイレクトに試験の結果に反映されていた。ただし授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習例がなかった点が残念であり、担当者として反省すべき点である。今後は授業外の学習の具体例なども紹介しながら、質の高い授業を行いたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教育目標、内容的妥当性などの点では、おおむね望ましい結果が得られている。本科目については例年少人数の履修が続いているが、受講者が増加した場合は、これまでとはちがう授業アプローチが求められる。常に学生からの授業についてのフィードバックを求めて、要望などについては適宜修正・調整を行いながら、満足度の高い授業を展開していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Leaver Soren Eric

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension II	4	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、リサーチとプレゼンテーションに重点をおいておりました。学生は準備を十分にして授業にのぞんでいました。学生の参加意欲は高く、プロジェクトとして世界の様々な文化に関するリサーチを行い、それについて英語でプレゼンテーションをおこないました。学生が英語でのプレゼンテーションをする機会が授業のなかで多く取れたと思います。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体としてのトータルの成績、理解も高く、準備も良くできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできておりました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>このクラスにおいて学生たちは、それぞれのプロジェクトの選択と研究に挑戦し、継続的な努力の結果、授業の要件を満たす情報源を見つけることができました。このような自発的な学習方法自体にも利点があると思われることから、DP上の位置づけは妥当だと考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>全体としてのトータルの成績、理解も高く、準備も良くできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできておりました。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体としてのトータルの成績、理解も高く、準備も良くできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできておりました。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Once again, this year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed. In semester 2, rather than work in a specific class period timeslot, we had an open attendance policy with students able to come and go during a whole afternoon I had available. This resulted in considerably more work for me, but it allowed for more student interaction, and consequently, much stronger sotsuron reports. Of course, this was disrupted by the change from face-to-face to online during the second semester, but all students completed the requirements.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Though distracted by job hunting and COVID-19 restrictions, this class generally worked well towards achieving their goals. They definitely worked better when offered time flexibility.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For the most part, this class progressed well, though absences in semester 1 for job hunting caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed. Attendance was never an issue, particularly in semester 2 once job hunting had been basically completed.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

From lessons learned in this and previous years, sotsuron writing will be much more structured this coming year with specific deadlines for specific sections. This focus on sections of the report rather than the whole should enable the students to complete their reports in a much more timely manner.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

With a seminar class focusing on sotsuron and job hunting as priorities, it is what it is, so current systems will be continued.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業論文の完成まで、授業時間（ZOOM）だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度が高めの授業であったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の内容的妥当性は、高めであったと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>遠隔授業が主であったが、各学生の指導時間をしっかりと確保できたと思う。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の達成度・満足度は、高めであったと考えられる。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒論の執筆・完成にあたり、論文執筆の作法に加え、オリジナリティーあふれる着眼点を持つことの大切さ、研究倫理の理解や引用の適切性、自分の言葉で他者にわかりやすく表現することの重要性、研究することの醍醐味を学生たちに理解してもらうことを心掛け指導にあたった。卒業論文のテーマについては学生本人が追求したいテーマを尊重し、丁寧に指導することで一人一人が達成感あふれる卒論完成を目指した。学生間での意見交換や自身の論文発表の機会などを設けることで、ゼミ仲間との交流も図りながら各々が高いモチベーションを維持しながら意欲的に書き進めることができるよう工夫した。目標期日内に全員が卒業論文を完成し、提出することができた。また、もう一つの目標でもあった「全員就職決定」についても達成でき、ゼミ生全員が4年間の互いの努力を讃え合い、笑顔で卒業式を迎えることができたことは何よりも喜びであった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.8、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.8、「説明は理解しやすい物であった」は4.8、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.8と概ね良好であった。</p> <p>ゼミ学生の意見として、「先生の最初のゼミ生になれたこと、本当にうれしく思っています。4年生になり、直接会える回数は減ったものの、私が就職決まった時、一年半かけて書いた卒論が完成した時、一緒に喜んでくれてありがとうございました。卒業してもまた相談に乗ってください！卒業式、また会えること楽しみにしています。」「オンラインでもすごく丁寧に毎回卒論のアドバイスをしてくださり、本当にありがとうございました。先生のアドバイスがあったからこそ卒論を完成することができたと思います。どんな時でも優しく親身に相談に乗ってくださる先生には感謝の気持ちでいっぱいです。ゼミ1期生になれて本当に嬉しいし、楽しかったです。素敵な思い出をありがとうございました。」「とても丁寧な指導をしていただきました。本当にありがとうございました。」「先生のゼミを選んでよかったです。たくさんお世話になりました。ありがとうございました。」などがある。素晴らしい学生たちに恵まれたことに感謝している。学生たち一人一人の4年間の努力とその成果に心からの敬意を表したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.7、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.8、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.7、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.7、「職業選択の参考になった」は4.7と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本学にて卒論指導を行った最初のゼミ生であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの卒論執筆・完成ならびに就職進路の決定に向けて尽力していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。</p> <p>② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。</p> <p>③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、到達度自己評価について1名の学生が「少しそうでないと思う」と回答している以外は、すべて肯定的な回答である。学生の卒業論文や課題は十分基準を満たしたものであった。よって教育目標は達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかつたり、データベース、インターネット等を十分活用できてなかつたりした学生もいたことは、今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、全ての学生が全ての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。コロナ禍の中、図書館の利用が制限されていたり、直接会って指導したりすることが難しかったりしたが、Meetを活用して卒論のための文献を探す指導をしたり、卒論執筆の面談をするなどして、直接会ったり行動したりすることができない不便をなんとか補完することができたのではないかと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>卒業論文については、Meetを活用した面談やメールを利用して個別での指導をかなり実施したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的だったと思う。また、インターネットやデータベースの利用について指導する時間を取ることができたので、うまく活用できた学生が多かった。卒論の個別指導については、Meetの活用が有効だということがわかったので、今後も続けたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、新約聖書の基礎であるイエス・キリストの生涯と教えや弟子の働きについて理解を深め、キリスト教が世界に広がった経緯について学ぶことを目的としている。新約聖書を土台とするキリスト教の行事についてグループ発表を行い、互いに視野を広げ、最後には1年間のキリスト教の学びの集大成として建学の精神である「感恩奉仕」について個々人が向き合い考えを深められるよう、毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形態での学びを工夫した。</p> <p>②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。チャペルでの学びを、総合的に把握することができるようになった。</p> <p>③学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、一年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何を受け取ったのか把握できるようになった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(4.1)、知識理解に関しては(4.4)であった。到達度の自己評価の平均値は(4.0)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの視聴率約80%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。</p> <p>また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らが習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価についての平均値は(4.4)であった。遠隔授業においてもチャペルポートフォリオを導入したことは、チャペル体験へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。 本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.7、「学生の意見を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均は(4.2)であったが、2年次以降も学生が聖書を開いて日常生活に取り入れられるよう、仕組みを作りたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、通常では、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。今年度ははじめての遠隔であったため大人数ということもあり、グループ発表をすることができなかったが、次年度は工夫して、大人数で遠隔でも発表できる手法を獲得したい。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に意識できるよう促すことが課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と文化	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、キリスト教で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史について概観した後、聖書を土台とした芸術作品を鑑賞したり、文学作品を味わったりすることによって、学生自らの人生に語りかける聖書のメッセージについて考えることができた。今年度は少人数であったので、グループではなく、個人でキリスト教に関するテーマを自由に設定し、調査・発表を行い、視野を広げていき、全員が各々の興味関心についてレポートを書くことができた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.8であり、到達度自己評価の平均値は4.5であった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は95%以上であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、キリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。</li> <li>キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。</li> <li>チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。</li> </ol>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目はキリスト教を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表を行い教養を養うことができる、という行動目標については、今年度は少人数であったため個人での調査と発表を行った。発表においては、学生同士の積極的な意見交換が行われ、活発なグループディスカッションとなり、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価の平均が4.5であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義としては質評価の結果に表れているように妥当であったと言えるが、今年度は急遽、遠隔授業となったため学生のグループ発表をすることができなかった。今後はオンラインであっても、様々な学科の受講生との多角的な意見交換ができるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初年次セミナーⅡは、1年次後期の必修科目である。教員2名で担当し、前半と後半にわけて各教員が授業を行う。私は後期授業の前半を担当した。</p> <p>授業では、大学での学びや就職の際に必要な「書く力」「考える力」「読み取る力」を身につけることができるよう指導を行った。特に「書く力」に関しては、読み手に書き手の意図や主張がより効果的に伝わる文章の書き方について指導を行った。学生たちは授業に加え、定期的な課題にも取り組み、レポートや小論文の書き方について理解を深めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.6、「説明は理解しやすい物であった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.4と概ね良好であった。</p> <p>学生の意見として、「レポートの書き方について学ぶことができてよかったです。ありがとうございました。」、「レポートの書き方について知識を深めることができました。」などがある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.1、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.3と概ね良好であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの書く力の育成や引用等に関わる作法の指導に尽力する。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講にて、体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握と実体験できるようにした。</p> <p>②実技中も全員に準備したカロリー各カウンターを装着して、その一コマの時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーが把握できるようにした。</p> <p>③始業から3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法と機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動処方できるようにした。</p> <p>④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望む様に促し、自己の運動量の把握させ、強い運動意欲を喚起した。</p> <p>⑤1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>⑥生涯スポーツでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チー</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は84点 (SD8)であり、再試対象は2名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものが23名(33名中)と予想以上に多かった。</p> <p>目標への到達度の平均値4.2と高く、知識習得に対し平均値4.3は評価できると考える。</p> <p>授業の質的評価は学習内容が明らかな評価が4.5と高かったが、遠隔ゆえが、話し合うや発表は3.5に留まった。</p> <p>学習の評価では予習、復習をしていない者が18/26と多く、遠隔中の運動に関わる状況として理解できる。</p> <p>情報利用に関して、シラバスを見ていない者が11/26名と例年より少なくなった。遠隔下ではシラバスや、資料が重要になっている状況に則している。</p> <p>図書館の利用は0であったが、ネット利用者は14と増えている。</p> <p>欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われてい</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。遠隔下であっても、学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③受講動機で内容に関心がある学生が65.4%で、単位獲得目的の学生が40.9%である。「受講動機」が曖昧な学生も多いが、「学習到達度の自己評価」は96%が達成できたと考えており、人文学部の学生に妥当な内容であったと考える。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>遠隔下では、物理的に個人種目しか実体験できない。しかし、単体種目の動画において、視点を持って観察する様に促したところ、色々な知識や関心を引き起こせたと考える。それにしても、遠隔時でも可能な運動種目を考案しておく必要を検討した。</p> <p>学生の評価は、遠隔時のストレス解消、これまでになくスポーツを見つめ、知識が膨らんだという意見が多く、マイナスの意見は見られなかった。</p> <p>長時間の座位を強いる状況下の配慮が100分5限授業は健康作りと逆行していることは明白である。改善すべきである。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。レポート（試験）の結果からみると、授業の内容よりもインターネットなどからの引用に頼る学生もいた。授業の内容が理解不足にある学生は、レポートの評価理由をメールで説明し、史料の使い方についても指導した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。前回の双方向的なやり取りが不足した点は、こちらから質問を投げかけるようにした。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、学生の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことを通して、国際的な情勢を理解し、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めるのが課題である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>文学的考察とは人の心、時代背景、歴史観、言語、表現…そういったすべての事柄を含む「実学」を学ぶものであることを、多くの上質な文学作品に触れながら講義していった。ここで一番大切なことは、それらを学生がどこまで自身と重ねて考えるのか、感じるのか、ということである。そして最終的には「いかに生きてゆくのか」という自らのアイデンティティの活力となることが本科目の目的である。そうしてはじめて「解釈」という域に達することを解きつつ講義を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>講義を重ねるごとに、学生の反応に活気あふれるものを感じた。また学生からの感想文も意気込みあるものに変化し、学びの自覚が見られた後には、80%近くまで伸びていったように思う。関心の要になるものを把握してくれているように感じた次第である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、良かったと思っている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>リモート授業ではあったが、学生たちの集中は途切れることなく、反応はかなり良かったように思う。ただし、古典であれ、近代文学であれ、実際の作品に触れ、手に取って時代を感じることも重要であるが、それがままならぬことであったことが残念であった。いずれまたコロナ終息後には実施したいと思っている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況の総括的評価としては、今年度はかなり良く、80%である。さらに伸びるよう、工夫を重ねてゆきたいと考えている。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 達也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生が板書をノートにきちんと書き留めるように、スライドの静止時間を長めに確保した。そのため、毎回のように講義に出席し、説明を漏らさずに聞いている学生と、講義中の説明等を聞いていなかったり、欠席が多い学生との間に、講義内容の理解に大きな差が生じたように感じた。以上により、学生の学習準備性については、講義の予習よりも毎回の授業の復習を行うという傾向が強いのではないかと推断する。受講動機については、多くの学生が単位数の確保のためと回答しており、日本国憲法に興味を抱いて履修する学生が少ないので、今後は履修した上で日本国憲法に興味を持ってもらえるよう工夫を施していきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験の成績については、全体として高得点者が多く、上記の目標はほぼ達成できていると思われる。しかし、学生による授業評価によると、到達度自己評価の全ての項目において、多くの学生が③の「まあまあそうだと思う」および④の「わりにそうだと思う」を選択しており、試験の成績とは別に学生の授業内容の理解に努力が必要であると感じた。学習量の評価については、0時間と回答する学生が多いので、今後は授業時間内だけでなく授業時間外学習をしなければならないよう工夫を施していきたい。さらに、授業時間外学習時間が少ないことと併せて、図書館やインターネットの活用についても、利用していないと回答する学生がほとんどであったので、上と同様に今後の課題としたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、ほぼ問題ないと思われる。日本国憲法は基本的には、まずは制度の内容や基礎理論の理解が重要であり、知識・理解の面が極めて重要であると考えられるためである。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

授業の進行方法については、現在のところは変更を検討していない。板書(スライド)による講義スタイルを採用しているが、板書だけでなく、説明を聞いていないければ内容の理解に至らないようには工夫している。受講生自身が、板書の文字だけでなく、補足説明を聞きながらそれぞれのノートテイキングを行い、理解を深められるようさらなる工夫を考えたい。講義中における概要プリントがない分、毎回の授業の説明をきちんと聞いておかなければならないという意識を学生に持ってもらえたらと考えている。現在のところは、試験の全体的な成績を見てもわかるように、このスタイルである程度は理解が高まっているので、今後、全体的な成績が下がるようであれば、概要プリントの配布も検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業時間外学習をいかに確保するかが今後の最重要課題と認識している。適宜、課題を課す等、積極的に取り組んで行きたい。やる気が出なかったとの自由記述もあったので、如何に学生に興味を持って学習に取り組んでもらえるか検討したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>徳倫理学、功利主義、義務論、討議倫理を比較しながらそれぞれの基本的特徴を理解し、かつ人生のさまざまな場面でそれぞれの考え方をいかに参考にできるか、日々のニュースなども取り上げながら説明することを心掛けた。</p> <p>受講動機の大半は単位数確保であったが、一部関心のある科目である旨の記述もあり、「普段考えることのない物事について考える力をつけることができた」との自由記述回答もあった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>出席日数、最終レポートともに合格水準に達し、レポート提出者に不合格者はいなかった。</p> <p>よく理解できなかったところをインターネットで調べたと回答した学生が複数いた。</p> <p>（毎回の内容を復習するレスポンスをフォームで提出させたため）毎回復習ができたと回答した学生がいた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価はおおむね良好で、内容は妥当であったと考える。</p>
---	---------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>質評価はおおむね良好であり、進め方は妥当であったと考える。</p>
--	--------------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>準備状況、目標達成状況、内容、進め方いずれもおおむね妥当であったと考える。 課題は、用語そのものが難しいため日常用語に置き換えて説明すること、遠隔でも適宜顔を出すこと、遠隔時の板書（小型ホワイトボード）が読みにくいとのことだったので改善すること、などである。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。そのため、関連分野の学科に所属する学生はともかく、それ以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目といえる。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が福祉学科では88.9%、英語学科では73.7%と高い数値が表れていた（一方で本科目名に使われている「文化」に関する観光文化学科は「関心のある内容である」と回答した学生が80.0%であった）。開講時点で学生の多くは関心意欲がそれほど高いわけではないことはある程度想定していた。そこで毎回の授業では異文化コミュニケーションの基礎知識を理解する設問である「確認チェック」を行なった。学生たちが具体的な事例に基づく問題を解くことにより、理論を実践的に捉えてもらう狙いがあった。</p> <p>②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業への理解が困難となる可能性があるため、毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業内容の復習を行った。途中からオンライン授業に切り替わったため、毎回の授業の課題としても提出してもらった。</p> <p>③映像を通して理解してもらうため、「差別」そして「異文化対立」に関する動画を見てもらい、それぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④全14回の授業のうち前半と後半において知識理解を確認するための小テストを実施した。当初は持ち込み不可という条件で行う予定であったが、オンライン授業に切り替わったため、オンラインテスト形式に変更した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は4つの学科にそれぞれ所属する100名近くの学生が受講していた。最終的な成績の平均値は75点以上であり、再試対象者はいなかったため、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>学生の到達度自己評価に関するアンケートでは、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であり、学生自身も本科目の知識理解に関しては達成感があったと考えられる。その一方で学習量の評価では授業前の予習に30分以上かけた学生の回答が半数以下であった。昨年度はテキストを使用しなかったため、学生個人で予習を行うことが難しかったことが原因として考えられる。今年度はその反省もふまえ、学生個人にテキストまたは事前にアップロードするレジュメを使って次回授業に該当する部分を予習してもらう予定である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 「知識理解」に関する達成度は4学科平均4.1以上と高い結果であった。「態度」に関する達成度は学科によってバラつきがあり、英語学科が平均値4.3、観光文化学科および看護学科が平均値3.9に対し、福祉学科は平均値3.6とそれほど高い結果とはならなかった。学生たちの成績も一定以上であったことから内容的には妥当であると考えられるが、学生たちに内容に則したQ&amp;Aやアンケートを実施は毎回の授業で行うなど改善の余地はあると思われる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が一部の学科では3.2と低かった。昨年度の課題でもあったため、今年度は学生が話し合う場としてグループ討論を実施する予定だったが、コロナ禍によりオンライン授業に切り替わったことでそれが叶わなかった。オンライン授業形式ではグループ討論を行うことが難しいため、代替案として授業の間にチャット形式でQ&amp;Aに回答してもらい、こちらから質問し学生に音声で答えてもらうといった方法を試みていく予定である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>今年度はコロナ禍の影響もあり当初の予定から変更を余儀なくされる授業が多々あった。それでも全体的な成績や、知識理解、態度といった学生の到達度自己評価の平均値のいずれもが前年度より大幅に上がったことは、昨年度からの課題であった学生の知識形成の達成と授業自体の質を上げるといった目標が十分に達成されたと考えられる。</p> <p>課題としては予習ならびに復習時間の向上が挙げられる。この点に関して、今年度は事前にGoogle Meetで次回使用する授業レジュメを掲示し学生にダウンロードしてもらい、次回授業に該当する部分をテキストで予習してもらおうといった方策を行なう予定である。一方で昨年度から継続している毎回の授業終わりのまとめ問題の実施は、今年度も再試対象者がゼロという結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語発展の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の76.9%を除いて、③「関心のある内容である」は84.6%で、⑤「GPAをあげる」は30.8%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。</p> <p>2. 受講人数が32名で、語学の初級としては妥当と思います。学生一人一人に対して指導ができました。</p> <p>3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、今学期は事情により、遠隔授業を行うことになりましたが、対面授業と比べて、不足な部分があります。今後の授業において、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことに工夫したい。</p> <p>4. 今学期のMeet授業中に毎回復習テストを実施することによって、学生の復習姿勢の養成や学生の学習状況の確認ができました。今後も引き続き実施していこうと考えています。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>1. 最終的な成績の平均値は「85.56点」であった。【A】評価は「40.6%」で、【B】評価は40.6%で、【C】評価は18.8%であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル（定期試験及び平常点の総合として80点以上）に達していた。</p> <p>2. (DP-1)の知識理解、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わることができる能力を初歩的に習得していた。</p> <p>3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週3回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することを評価するべきです。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の学習到達度評価をみると、DP-①「自分なりの目標を達成した」は平均点4.2点で、DP-②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.7点で、DP-⑤「専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」は4.2点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、「[4.3~5.0]」の結果で、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。
2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。
3. 「図書館やインターネット等の利用」は、遠隔授業の影響で、図書館を利用することが制限されたが、ネットを利用して、学習に補足することがかなり利用したことが見られて、いい結果であります。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用するように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語発展は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。
2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。
4. 中国語発展は選択科目であったが、将来の職業選択の幅をより一層広げて、有利であるために、中国語の検定試験を受けて資格を取得するように、今後の授業指導にも取り組もうと考えています。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が9割以上を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては皆が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価の多くの項目において、平均値も中央値も4-5であることから、教育目標は到達したと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考えているため、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フランス語発展	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>志望動機は全体の66.6%が「関心のある内容である」と回答したことから、未知の語学であるフランス語に対する興味・関心・期待のある程度の高さが伺えた。教科書は新しく作った「音から学ぶ」ことを念頭に置いたものを採用し、音をまねる、音とつづりの関係を発見するというのを重視した。Google Classroom内にGoogle Formsによる「理解度チェック」の課題を設け、解説を読みながら質問に答えてもらい、オンラインでひとりで授業を受けるとしても無理がないように留意した。授業の最初はMeetで出席確認するとともに、前の回の復習としてスピーキングチェックを行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86.0点（±25.0点）であり、全員が標準的レベルに達した。50%はS、25%はA評価だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」、DP5「技能表現」に関していずれも100%だった。このことから学生の目標は「達成された」と判断する。学習量の面では、66.6%が1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったと回答した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業は、内容的におおむね妥当性があったと思われる。授業の質評価において、どの項目も評価は比較的高かった（平均値は3.8から4.3、中央値は4.0から4.5）。高い評価となったのは、オンライン授業の性質によることも大きかった。評価基準はGoogle Classroomでの課題、期末テスト、Meetでのスピーキングチェックであることが明示され、課題の締め切り日が近づけばオンラインでリマインドされるので、提出を忘れることが少なかった。分からないことは各自で何度でもFormsの解説を読み返したり、音声を聞き直したりできる。Meetで直接質問に答える時間もあった。ただし、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」に対して1名から「少しそうでないと思う」との回答があった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>Meetのブレイクアウトルームは操作が煩雑であり使わなかったが、Meetでもっと学生同士が話し合える時間があれば、能力向上につながったのではと思う。また遠隔授業ならではの問題点としては、Formsでの解答でつづりは合っているのに、余計なスペースが空いていたり、理由不明で不正解になることが挙げられる。システムとして融通が効かず、目視でチェックしなければならない点にはもっと注意するべきだった。とはいえ、正解・不正解がすぐに分かるのは学習者にとって非常に明確である。自由記述で「フランス語検定は何級を受けるのが妥当か」との質問があったので回答するが、学習時間50時間以上に相当する5級から受けてみるのが望ましい。ただオンライン授業に移行したことに伴って、当初のシラバスから学習スピードを落としたこともあり、検定試験を受けるには参考書等で補って対策することが必要である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>例年の対面授業では映像を使ったフランスの様々な文化紹介に力を入れてきたが、著作権の関係でそれが叶わないオンライン授業においては、アップした文化紹介の資料がどこまで学習の役に立ったのかが見えづかった。タイトなスケジュールで授業準備をする中、課題の内容や量は妥当と評価されたものの、レポートや音声提出など、もっと他の課題も考えられたはずだと思わなくもない。今後オンライン授業が続くとすれば、自分なりに得た技術的経験を活かして、サイバー空間に教室を作るイメージで、クラスメートと助け合って課題に取り組みグループ学習に力を入れたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2020年度は遠隔授業(Google Classroom+Meet)で行なわざるを得なかったため、当初、計画していた対面でのMicrosoft Accessを用いたデータベース実習(すべての受講学生のPCにMicrosoft Accessがインストールされていないため)ができず、Excelピボットテーブルを用いてデータの解析の実習を行った。つまり、通常のExcelを用いたデータベース検索、分類の実習と、Excelピボットテーブルを用いたデータ分析を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>受講者7名の成績分布は、100点(S)が2名、90-99(S)が2名、89-80(A)が1名、69-60(D)が2名であった。平均点は、86.1点、標準偏差は、17.0であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、関心のある内容であるが100%であった。</p> <p>到達自己評価は、回答者5名の平均点で高い評価は、(1)自分なりの目標を達したが4.8、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができたが4.8、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたが4.6であった。</p> <p>授業の質評価は、(1)テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであったが4.6、(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったが4.4、(3)説明は理解しやすいものであったが4.6であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>コンピュータの演習を対面授業と遠隔授業で比較することは難しいが、遠隔では、学生の質問の数が対面の時よりも多く、個人授業のように気軽に聞けるようであった。ただ、授業内容があまり高度にできず、理解が早い学生にとっては、物足りなさを感じているような意見も出た。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>2021年度もコロナ禍で、後期の授業も遠隔にならざるを得ないように思える。各学生の理解度によって課題の内容を種々準備する計画である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では9割以上の学生が肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、それぞれ3名、4名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。昨年度、予想を遥かに超える受講生であったので、大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善することを考えていたが、遠隔授業となり、また250名を超える受講生であったため、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができず、対応に苦慮した。課題が提出できているかどうか不安に思った多くの学生から一斉にメールが送られてくることもあり個別の対応が難しかったので、課題の提出ができていないかどうかについては個別の対応をせず、提出できていない学生にこちらから知らせるという形にしたが、それを「メールで質問してはいけない」と理解した学生もいて、そのことが大変不安だったということの後で聞いて、大変申し訳なく思っている。口頭と文書の両方で、指示が徹底するよう努めたが不十分であった。次年度は、伝わりにくい部分がないように工夫したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course was crafted around community involvement and current environmental issues. Using Sustainable Development Goals (SDGs) as a backdrop, and a number of community NPO activities as a focus, we created activities and materials to highlight the issues which these groups are seeking to fix. One major project was built around the plight of the Sone Higata wetlands in Kokura Minami-ku, and what is being done to protect the wildlife there. We did this using English roleplays which the students wrote, and performing them on video using PowerPoint. We also worked on creating Karuta cards to match Kitakyushu City's Geo Karuta.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Grades showed a range from a minimum of 76% to a maximum of 92%. The average grade was 81.8%. Grades were largely determined by effort and results in activities, with a final scoring based on their final presentation. No students failed the course. Despite being both face-to-face and online, this course actually went extremely well.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The students showed great willingness to participate (DP3) and had a very positive attitude to their studies (DP4), even when online. Their knowledge and understanding (DP1) of the issues definitely increased during the course of the class. With these in mind, it seems reasonable to assume that all three DP goals were well achieved.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The biggest issue for this class was the shift to online instruction, and the inability for outside speakers to join us because of the COVID-19 Pandemic. However, we had two excellent projects which we will continue for the coming year. Doing these projects also gave the students opportunities to participate in outside conferences and meetings so it was well worthwhile.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

For the coming year, we will focus our assessment more on the activities completed and the efforts of the students to complete tasks in a collaborative and creative way.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	はい	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが、受け身にならないよう工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。当初は対面で授業を実施していたが、コロナ感染拡大防止のためにオンラインとなった。外部講師の講義もオンラインでの受講となったが、コメントカードを見る限りでは、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。依然として課題は人数が多いため個別的な対応ができないことであるが、コメントカードの回答に対してメールのやり取りのできた学生はいる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、自身のキャリア形成のために、様々な知識を身につけておくことの重要性を理解してもらい、担当者の専門である社会学の知見を基にして自身のキャリアについて考えてもらうことを目的としている。アンケートの「受講動機」では「関心のある内容だから」が多くなっており、前年度よりも受講者数が増加していることから、本科目の意義についてはシラバスを通じて概ね伝わっているものと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>遠隔で実施した回においては、講義の内容について感想や自身の考えをコメントするよう求めたが、ほとんどの学生が真面目に受講し、自身のキャリアについて真剣に考えていることが伺える内容であったことから、本科目の目標は概ね達成できたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アンケートの「自分なりの目標を達成した」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目で肯定的な回答が多くなっていることから、内容は概ね妥当であったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

アンケートの結果から、受講者の多くが本科目の予習や復習にはあまり時間を割いていないようである。自己学習に充てられる時間が専門科目優先になるのはやむを得ないし、今年度は遠隔授業により学生の負担が増加した影響もあったとみられる。今後は、自己学習のための要点を伝えられるよう工夫し、効率的な自己学習を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

アンケートの結果から、次年度、大幅に内容を変更する必要はないと考えている。コロナの影響で社会に様々な変化が生じている中で、今の情勢に応じた内容の講義となるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実践英語音声学Ⅱは英語学科1年生後期の必修科目で、前期の実践英語音声学Ⅰに続く科目である。音声学については大学で初めて学ぶ学生がほとんどであると思われるが、前期で音声学に関する素地ができており、さらに実践的な演習や発音練習を多く取り入れ、わかりやすく役立つ授業を心掛けた。同時に、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには「この1年を通して、英語の発音について詳しく学ぶことができました。また、きちんと発音することの重要性にも気づくことができました。これからも、講義で学んだことを活かして英語を学んでいきたいと思います。」「先生ありがとうございました！発音に気を付けてこれから過ごしていきたいです！学習したことを忘れないようにします。」「音声学を学ぶことができよかったです。ありがとうございました。」などの意見があり、学生たちは積極的に授業に参加し、その後の活用にもつなげる努力をしていた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.7、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.7、「説明は理解しやすいものであった」は4.8、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.7と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.7、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.4と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および音声認識力の向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションII	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 前期で学んだことを利用しながら新たな知識を身につけていく科目であるが、前期の授業である「グラマー・コンポジションI」の習熟に大きな差があったため、既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。</p> <p>② 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。</p> <p>③ 復習テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回復習するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>ほとんどの学生が標準的水準を超える成績に達していたので、教育目標は概ね達成したと考える。しかしながら、約1割の学生が到達度自己評価について否定的な回答をしている。1年次のこの科目がこれ以降の学生の英語学習の基礎となるため、多くの学習項目が含まれており課される課題も多いため、自己評価が低い学生が増えてしまったと考える。学習量については、例年より格段に増えており、その結果は小テストや試験の結果にあらわれていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP,カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考えます。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>全ての項目について9割以上の学生が「かなりそうだと思う」と回答している一方で、「説明はわかりやすいものであった」という項目については1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答し、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目については、それぞれ1名の学生が「全くそうではないと思う」「少しそうではないと思う」と回答している。<input checked="" type="checkbox"/> 授業時間の3分の1は、文法項目や演習問題について学生からの質問に答える形で行っており、学生が参加する機会は十分あるが、そのことは<input checked="" type="checkbox"/> 授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」とは、捉えられていなかったようである。講義の部分ではスライドを使用したが、臨機応変に画面上に書き加えられるような形にしていれば、もっとわかりやすく説明できたのではないかと思う。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>小テストや試験の成績、授業中の学生の質問や発言から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたと考えます。予習や復習については、例年に比べ学習時間も回数も増加しており、そのことが成績にもあらわれている。一方で、課題が多いことを負担に感じる学生もいたので、学修の項目を少し絞るなどして改善したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC演習Ⅰは、英語学科1年生後期の必修科目である。TOEICはこれまでに受験したことのない学生が大半で、英語力全般を高めるとともに、TOEICの試験の特徴を知り、スコアアップに向けたスキル向上の指導にも努めた。</p> <p>わかりやすい授業を心掛けるとともに、実際のTOEIC試験や他の資格試験、日常英会話などでも実践的に活用できる知識とスキルの指導に努めた。</p> <p>受講学生のコメントには、「この授業で、TOEICの解き方のコツについて詳しく学ぶことができました。普段からも自分で問題を解いたり、英単語を覚えたりして英語力向上のために頑張ります。ありがとうございます。」「授業はわかりやすくTOEICの学習をすることができました。」などの意見がある。全体的に、学生たちは積極的に予習を行って授業に参加していた。予習・復習を勤勉に行い、意欲的に授業に取り組んだ学生の中からは一年終了時点でTOEIC700点を超える学生も出ている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.7、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.7、「説明は理解しやすいものであった」は4.6、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.0、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4と概ね良好であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力およびTOEICスコアの向上に尽力する。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習 II	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC演習 II は、英語学科 2 年生後期の選択科目である。TOEICはこれまでに受験したことのある学生も多く、英語力全般を高めるとともに TOEIC の試験の特徴を踏まえ、さらなるスコアアップに向けたスキル向上の指導に努めた。</p> <p>わかりやすい授業を心掛けるとともに、実際の TOEIC 試験や他の資格試験、日常英会話などでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>TOEIC のさらなるスコアアップを目指すため、授業は予習を前提に進めていく。そのため、学生たちは積極的に予習・復習を行い授業に参加していた。</p> <p>今年は新型コロナの影響で TOEIC の公式テストの抽選漏れで受験できない学生が多くいたため、来年度に受験の機会を掴んでほしい。受験した学生の中には 800 点を超えるスコアの学生も出ており、一定の成果が見られた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.4、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.5、「説明は理解しやすい物であった」は4.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.7と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.6と概ね良好ではあった。</p> <p>今年度は新型コロナの影響で、オンラインでの授業実施となった。テキスト画面の共有やリスニング音声などがスムーズに行えるよう尽力したが、今後はさらに効果的な指導が行えるよう工夫に努めたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力およびTOEICスコアの向上に尽力する。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>At the beginning of the semester, we again used Room 6208 in order to allow students to create their own materials using the Mac computers. However, the move to online classes from mid-semester meant we had to shift our focus away from Mac-related tasks to more general skills. We continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely!</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Class A achieved an average grade of 90.01% while Class B achieved 90.12%. Lowest score was 61%, highest was 100%, with a standard deviation of 8.96. Not one student failed the course. Each section of the course was divided into tasks that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. Grades were overall higher than the previous year, mainly because of the course being online. This doesn't necessarily mean that the students worked better - rather that the ongoing observation and evaluation that would be possible in a classroom setting couldn't be done, so the assessment criteria were reduced.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Knowledge and understanding (DP1) of the design and implementation of good presentation consistently improved. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their positive attitude covered DP4. Overall, they satisfied the criteria of all the DPs.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

With the reversal of the classes last year so that the students were learning the skills they needed before creating content, the overall balance of the courses has been better achieved. What is needed for the coming year is more focus on research and finding a deeper level of material for their presentations. Although their presentations and performances has been much improved, the content of what they work on still needs much work. Research-based activities should help alleviate some of those issues.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As a large part of assessing presentations is based on their performances, this has been harder to assess fairly this year. If the current situation continues into the second semester this year, then we will need to consider other means of assessment, such as student videos. The issues we experienced in this class probably account for the higher grades in 2020... therefore we will need to formulate a more rational approach.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This was a tough course because we started face-to-face, and just as the students settled, we changed to online. This had a big impact. This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "Communicate Abroad" from Cengage which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in the CHleru e-learning programmes for developing general skills. They also participated in our annual Zion Cup English Contest, preparing a speech, practicing it, and trying to achieve success in the department-wide contest.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, in D class, grades ranged from 83% to 96% with an average of 89.3%. Standard deviation was just 3.73. In A class, grades ranged from 70% to 95% with an average of 82.21%. Standard deviation was 7.47. For class speeches, all students prepared well and were able to present competent speeches to the class.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

In both classes I taught, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, and students were able to make steady gains. The only area of concern in these classes is maintaining a constant and ongoing study discipline. Students often use a leaps and bounds approach, whereas small and steady gains will help them achieve much better language competency.☒

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the next year include a greater focus on fluency, pronunciation, and participation. The students generally do very well, particularly with the limited skills they possess in the first year. However, they need to build their communication skills, not just in the classroom settings, but in their general application to language studies. This has been particularly difficult within the current COVID-19 crisis as a lot of the students have lost their focus as their English goals are quashed.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Assessment continues to be a focus, as by offering transparent and ongoing evaluation, we better empower the students to achieve the goals both they and the college set. We would also like to begin allowing students a role in self assessment. This will be an ongoing project as this is a process the students have little experience or confidence in.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course continued on from the first semester. Fortunately we were able to start the semester with face-to-face classes which allowed the students to finally get to know each other a bit. Returning online was a bit troublesome for this course as communication is the core element. However, as we had already been online in the first semester for this type of course, we were able to proceed smoothly and conclude the course successfully.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Generally the goals of the course were successfully achieved. About two-thirds of the students received either A or S. Those who didn't do as well are in two categories, those who put little effort into their work and those whose skills were lacking. The text provided lots of opportunities to practice and improve their communicative abilities, which they demonstrated on numerous occasions in discussions and performances. Those who took the opportunities to practice improved a lot. The feedback showed that the students took the initiative and did a lot of preparation, maybe more so than in previous years. The number of students who reported spending a lot of time preparing and reviewing matched the number of students who received high grades in the course.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

The current course is an integral step in achieving the communicative goals of our curriculum. The students' interest and motivation are reflected in the course evaluation results where the students gave the course high marks for matching their interest in their area of study.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

The class is highly evaluated and plays an integral role in their preparation for further communicative classes. The course works well at the moment and there is no need for any major changes. The main problem is how to get those students who are not as highly motivated and whose skills are lacking to put more effort into the course. Their skills in this area will only improve by practicing more sincerely. Showing how these skills will be essential for their future courses may be one way of getting them to put more sincere effort into their preparation and practice.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course was a success and generally provided a good grounding of communicative skills for future development. The students did well and their attitude and performance was very positive considering the conditions they had to deal with. Being online added some additional practice in skills that weren't initially part of the program, but will help them with courses in the following year.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Michael Jordan Berg

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>We followed the textbook fairly closely.</p> <p>Students were occasionally given homework but not usually.</p> <p>At the end of the year they did a presentation which was a play based on the units in the textbook.</p> <p>They wrote and memorized it.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Grades were given based on participation, tests, the final exam and effort exerted.</p> <p>Students seemed generally satisfied with the class, and it seemed neither too difficult nor too easy so I suppose I will continue to administer it the same way next year.</p> <p>There was no internet outside learning.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The class was communicative with plenty of opportunities for free discussion .However students' levels were such that much care and structure had to be provided.

Motivation included providing a fun atmosphere and positive feedback generally.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Keeping students on task was perhaps the biggest challenge as some would finish tasks early and then - having nothing to do - interfere with the slower students completion of said assignment.

A good way to proceed then would be to seat students next to other students of comparable capability perhaps.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Maintaining a positive atmosphere and keeping the zone of proximal development level ideal is key in these classes but generally the students enjoyed and were challenged by the class, and so I will continue to do it how I have so far frankly.

I should perhaps focus on my handwriting on the board however as it can get messy.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Leaver Soren Eric

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、英語でのディスカッションを小グループで行い、英語で発言する練習に重点をおいておりました。学生は準備をして授業にのぞんでいました。学生の参加意欲は だいたいにおいて高かったです。各学生が英語を使っのディスカッションをする機会が授業のなかで多く取れたと思います。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体としてのトータルの成績、理解度においてはだいたい達成できたと思います。授業の準備はできておりました。インターネットの利用について理解しておりました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生同士で英語でのディスカッションに挑戦することで、発言の機会が多くなり、それぞれの実質的な理解度を深めることができました。また文法学習を行い、その後反復してディスカッションを行うことで文法を体感して捉えることができる利点があり、CP上での位置づけは妥当だと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の授業では、私の教え方が概ね効果的でした。学生とのコミュニケーションもよくできていたと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

このクラスの全体的な進行には満足しています。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course was to help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study. With the shift to online classes in the 2nd month of the semester, a lot of what would normally have been done as speaking activities had to be done in other ways to allow students to share their opinions in ways that could be checked and allow feedback. This involved having students do more shared writing type activities than we would normally have worked with.</p> <p>Moving the course online added quite considerably to the amount of time it took students to do this. However, the majority of students seemed to make a concerted effort to complete the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students mostly managed to meet the course requirements. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Being online did present some difficulties here but as we worked through things and became more familiar with the possibilities of various systems and online applications, students seemed to have developed here. All students passed the class, with an average of score of 80 (sd =12, n=23). Unclear information / poor communication from the university about the final exam situation brought on by the switch to online classes caused problems in regard to grading.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were generally focussed on the course content and worked to complete the assigned exercises as best as they could. Progress was slow at times due to the nature of the online learning situation, but the majority of students took part in the class actively, and seemed to enjoy the class. ☒

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As we were mostly online, it was difficult to keep track of student discussions. Therefore a lot of the work involved using shared documents that the students worked on in pairs or groups to exchange their ideas and present their opinions about the topics under discussion. While this shifted the focus towards writing rather than oral discussion, it provided a good mechanism to monitor student understanding and provide feedback as needed. Due to the extra time bring online imposed on moving between activities, explaining and checking understanding, etc, on a number of occasions there wasn't enough time to complete the set activities in class. This meant the activities had to be assigned for homework. With heavy workloads from other courses, this wasn't ideal but there weren't really other alternatives if we wanted to complete the set curriculum. ☒

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Having to suddenly switch from face-to-face to total online learning situation introduced some confusion and challenges for the students and course instructor. However, based on experiences from the first semester, we were able to adapt to things, and it seemed that the approaches used were appropriate for the students.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to continue from 英語プロジェクトI and further develop discussion and research ability with challenge based learning. Four current topics were selected. Topics were examined in an active learning environment where the students discussed the issues in greater detail and completed research to gain a better understanding of the issues associated with the topic. Students were expected to work collaboratively on the various challenges and then share their findings with class members via presentations and discussions in order to offer ways to resolve the challenges that the topics face. Although this class began face-to-face, we had to change to online at the midpoint. However, the students handled this well and adjusted accordingly.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on classwork and final activities (presentations, debates, etc) in each of 3 topics as well as their performance in Zion Cup. For each topic, they could receive 20% to a total of 60%. They also received 10% for a mid-semester project, 15% for their final presentation, and 15% for participation in Zion Cup, making a total of 100%. Being online meant that attendance, apart from 1 student, was absolutely no problem, and student focus on tasks was exceptional, so final grades were higher than average. In fact, the average grade was 88.54% with a high of 94% and a low of 80%. The standard deviation was 4.65.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students showed a high level of knowledge and understanding for DP1, and due to the nature of the course, there was a large amount of judgment required for DP2. Motivation was never a problem for DPS, and all students participated well. For DP5, students called on the skills attained in previous years, and used these well. Therefore, the overall achievement of all DPs was high.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This was my first year teaching this course, but overall, I was very satisfied with the outcomes. The students all performed very well, and the learning outcomes were of a high standard. Being online from mid-semester caused its own issues, but the students adjusted well. Some of the students commented that the amount of preparation and research was high when compared to other classes, so this might need to be evaluated in the coming year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The system of assessment used in this course—being ongoing and task-based—works very well. Students are constantly aware of their grades, and this is an excellent motivator for improving performance. As grades were very high this year, we may need to look at more demanding standards to push them more. However, this year was hopefully an anomaly with being online, so in a normal class situation this might not be such an issue.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This is a new course for the new curriculum and continues on from the first semester. The focus of the course is to further develop the students' discussion and research skills with topical issues that will affect them in their lives. Part of this development focuses on collaboration. Fortunately at the beginning of the semester we were able to have face-to-face classes which helped to get the students to work together more actively than in the first semester.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>As the course required a lot of preparation and research on the part of the students, the range of grades reflected the amount of effort the student put into the various research and presentation elements. The understanding, analysis and resulting presentation of the topic was a good indicator of the work the students did for the course. Almost all of the grades were evenly divided between B and A, which it is felt shows the challenges and effort of the course on the students.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

As a third year course it fits well within the curriculum map. The students need to apply the skills and knowledge that they've gained in the first two years to benefit from this course. The results show that this is the case. In regards to DP3 the selection of topics that the students presented on in class fall well into this framework.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

The course was highly evaluated by the students (4.5 and higher) and they reported having put a lot of effort (1 to 2 hours) into it. This reflects well on the course. I hope to continue keeping the students' motivation and interest as this course helps them prepare their critical thinking skills for use in their graduation theses. Being face-to-face at the beginning of the course definitely worked better than being online, but both formats were able to achieve the goals of the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

It was good that the course went well in its first year. It shows that it is an appropriate and well received course. Making small improvements while allowing for adaption to the level of the students is a good way to ensure that the course works well again next year.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This active learning course is divided into 5 topic based units (selected by the department) each with 3 weeks of teacher guided, but student driven lessons. Week 1 involves an introduction of the topic by the teacher, using reliable media-based resources, to encourage critical thinking and discussion of the issue. Week 2 involves a research phase in which students find their own reliable sources of information to create a project which will be used to show and share more in-depth ideas and information about the topic. Week 3 involves presenting student projects and receiving class feedback. Through this kind of self-motivated exploration, students have the opportunity to learn more about relevant social issues which are currently being discussed on a global level.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 10%, completion of weekly homework assignments 40%, online project presentations 30%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Normally, students would take advantage of helping and receiving help from other class members, and by working together in small groups. Good classroom dynamics help to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributes to a high level of participation and increased understanding of the material. With online studies, however, students were encouraged to move outside of their usual cohort group to engage in independent critical thinking exercises and practice various forms of information gathering and sharing through advanced technology and online learning tools. By taking away the stress of presenting in front of their peers, and the time restrictions demanded in real-time presentations, students had the freedom to spend more time on independent research and project preparation which resulted in more interesting and useful project outcomes.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Creating a project course from the bottom up without any textbook or guidance is a challenge for any teacher in any environment, but when teaching online it proved to be even more challenging to create lectures, content and goals that would keep the attention and interest of the students, while at the same time provide understanding and encourage thoughtful consideration of important global issues. To achieve this for the students was a very difficult, but very satisfying challenge. Without an in-class component, students lost the benefits of division of labour and group support, however they instead benefited from learning to engage in self-study and find important ways to drive their own independent learning without the help of a group. This skill may become a critical skill in many of our students future careers.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The teacher's strict attention to attendance taking as well as weekly grading and active monitoring of homework is an absolute necessity with online learning as some students need more teacher encouragement, reminding and pressure in order to keep up on assignments without the assistance of an in-class friend group.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングII	1	後期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students improve their English reading ability. During the scheduled class time this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used to provide students with reading material and grade out-of-class progress.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Switching from face-to-face classes to online classes a month or so into the course seemed to have a large negative effect on student motivation. Most students managed to work at their own pace on the reading work, but there were problems with students not responding during online classes, and generally a lack of engagement with the instructor and one another. It seemed that a number of students just gave up, and the general unwillingness of students to respond online made the class an exercise in frustration.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Attendance online was an issue for certain students, it was unclear if they were actually taking part in the class or not. The average grade for the class was 78 (n = 56, sd = 20) with 7 students failing due to lack of attendance or insufficient work. Unclear information / poor communication from the university about the final exam situation brought on by the switch to online classes also caused problems in regard to grading.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

While many of the students managed to meet their regular reading goals, it was difficult to know for some how much they were actually engaging with, and understanding, the reading content.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The aim of the course is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. This involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. Without access to the university library, the online XReading system has been very helpful. Once the students had a basic introduction to this, they were able to do their reading without any major problems. This has not changed from previous years. The course is very much focused on attaining certain goals - reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. Finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes. Assuming we can get back to face-to-face classes, a proportion of class time will be set aside for extensive reading to ensure all students are reading for at least some time per week. Finally, there will be a continued focus on helping students set realistic goals and plan their reading homework effectively, which seems to be having some success. ☒

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングⅣ	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>特に重点を置いている点は以下の通りである。・文章の主旨や目的が推測できる。詳細が推測できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味を読み取ることができる。言い換えがあっても、事実に基づく情報が理解できる。</li> <li>・文章全体にわたる情報を関連づけることができる。関連する二つの文章のつながりを理解できる。</li> <li>・幅広い語彙、よく使用される単語の例外的な意味、慣用句的な使い方が理解できる。また、似たような意味で使われる複数の単語を区別することができる。</li> <li>・規則に基づいた文法構造が理解できる。また、難しく、複雑で、あまり使用されない文法的な構造が理解できる。これらの能力を身につけるために、この講義の受講資格はすでにTOEIC520を取得していることとし（リーディングI-IIIの中ですでに基礎的な読解力は身につけていることを前提としている）、TOEICの教材を使いながら精読・速読の両方のハイスキルを身につけるよう指導を行なった。</li> </ul>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、A33.3%,B33.3%,C16.7%,D16.7%である。CDの学生も努力は認められたが、分母がレベルが高い学生ばかりであったので、正規分布とすべく、厳しめの評価となっている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業アンケートの達成度自己評価は最も高いものが(4)4.8で最も低いものが(9)3.2であった。ひたすら読解力を身につけるのがこの授業の目的であり、それ以外の付加価値 ((1)(8)(9)(10))などにはあまり焦点を当てていなかったため、内容的には評価は妥当であったと思う。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では(1)-(3)4.8,(4)4.4,(5)4.6であった。自由記述には「毎回の授業では、Zoomであってもすぐに質問できる環境でとても授業を受けやすかったです」などの意見があった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>ハイレベルの学生の受け皿となる数少ない授業の一環として、今後も指導方法を工夫していきたいと思う。コロナが落ち着いてきたら、TOEICを教材として使用している特性上、授業内で受験を促すなどしたいと思う。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論II	2	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>毎年意味論の講義には苦勞するが、今年度は今までの経験を生かして比較的スムーズに授業を展開することができた。説明をなるべく単純化し、学生達にとって身近な具体的例を準備したことが、成功の秘訣であったと思う。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>講義内容は抽象度の高いものであるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回アクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。過年度生が受講者の半分を占め、50人近い大人数での講義であったが、皆熱心に受講した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

妥当である。英語学概論は英語学科生としては必須の科目であるが、入学直後の1年生に設置するよりも、2年生に設置するのはふさわしい。最初の1年は英語運用能力の養成を前面に出し、学科になれさせ、その後学問的な分野に触れさせるのがよい。また本学の学生のことを考えれば、1学期で言語学の代表的領域を講義するのではなく、1年かけて講義するほうがベース配分として適している。その意味でまず英語学概論Iを前期で実施し、後期でIIを実施するのは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一般大学レベルでの英語学概論と比べるともう少し掘り下げて講義出来る部分があるかもしれない。しかし本学学生の理解力を考慮した際、言語や文化に対する興味を広げたり、深めたりすることが、授業の最大の目的であり、その点は満たされている。自由記述には「非常に興味深かった」という記載が複数あった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎年学生の満足度が上がっている手応えがある。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ライティングの授業ではあるが、模範となるライティング教材をしっかりと読み込むためにサイトトランスレーションの訓練を盛り込んだ。確かな「読み込み」が、きちりとした文章構成の組み立てにつながることを理解させた。その上で、比較的軽いテーマについてこの授業用に設置したLMS上で、書き込みを行わせ、他の学生達からコメントを付けてもらうというライティング活動を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年はサイトトランスレーションの意味を最初にしっかりと説明したため、学生達は熱心に取り組んだ。どのようにライティング上達につながるかも理解したようである。学生のコメントにも「丁寧に説明してもらえてよかった」というものがある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。読解力の養成と、作文能力は表裏一体であり、学生達もそれに対する認識が深まった。1年次のグラマー・コンポジションでは単文練習に焦点を当てているが、2年次のこの授業では段落としてまとまった文章を書く練習に移っているので、位置づけは良好である。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>進め方は現状でよいと考える。毎回の提出・返却サイクルは、学生教員双方にとって負担過多になることもあるが、そこは双方努力するしかない。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>現状の進め方で十分機能している。</p>
-------------------------------	-------------------------

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to have students improve their paragraph writing skills and to introduce them to the structure of English essay writing, in preparation for academic writing in their third year. Continuing on from the introduction to paragraphs inライティング基礎 this course looked at the various types of paragraphs in order to broaden their writing styles and prepare them for various writing tasks.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>With about a third of the students receiving a grade of A or higher and about 15% of students receiving a C grade, I believe that the students were able to achieve the goals of the course quite well. Although their skills were not perfect they did improve to some extent, although the online situation made it much more difficult for them. The more proficient students did a better job with the tasks, while many of the lower graded students either did very minimal work, or submitted material late. The complexity of getting their ideas onto paper definitely became more challenging as the course progressed towards essays. With a few exceptions I think the course was successful in attaining its goals.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP1 is the primary element for this course with DP5 being a bit less important. I believe these DP were met for the reasons explained above. DP4 plays a less important role in this course as the focus of the course was not the content of the writing as much as the need to understand the skills involved in the writing process and the collaborative aspect of peer editing and support. The more adept students did, however, show aspects of DP4 in their writing without direct instruction, which indicates that previous courses have instilled this idea into them.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Last year the course worked well with the implemented improvements. This year was successful to a certain degree, although students would have benefitted more from direct discussion and advice, rather than through online support, which was much more difficult to follow through with. We spent more time on various types of paragraphs which seemed to help the students develop a stronger understanding of what is involved in writing longer essays. As one of the students noted in her feedback, the one issue that would need attending to is the completion of homework in a timely manner as it affected certain class activities.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I believe the course is successful as it is There were no serious problems that would require a reevaluation of the course. Maintaining the students' interest and providing them with feedback and support is an important element to success with this course. The only major point to attend to is the homework issue mentioned above.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムになり選択科目になったとはいえ、選択肢が少ないので、文学を勉強したい学生もそうでない学生も受講することとなり、受講動機として③が61%で④が71%である。英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。去年の受講動機③単位数を確保する(58%)、④関心のある内容(25%)と比較すると、ポジティブな気持ちで受講する学生が激増したことが興味深い。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>到達度自己評価においては、(2)(3)(5)で4.5であり(1)(4)(6)(7)で4.5で概ね高かった。(9)は4.1で毎回低めの評価となるが、英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目である。評価が4.2の(8)において、コミュニケーション力は遠隔授業でもディスカッションなどを促すことがもっとできたのではと反省する。表現力は毎回の和訳で向上した学生が多い割には、和訳やレポートの表現力とアンケートの表現力を結びつけて考えることが難しかったのかもしれない。成績は、A32.4%,B43.2%,C8.1%,D16.2%である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）」の評価にあった8名からのコメントでは、「様々な文学作品を読んだ」「作品の時代背景や作者について調べた」などの意見があった。しかしながら、学習量（課題以外に取りくまなかった）においては、ほとんどの学生が「課題で忙しかった」「課題で十分であった」と回答している。こちらとしても、課題をたくさん出しており、その課題でDRCPを達成するよう意図していたので、内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」は(1)4.6,(2)4.5,(3)4.4,(4)4.1,(5)4.3であり、去年は(1)3.8,(2)3.8,(3)3.8,(4)3.7,(5)3.7であった。去年が対面授業であり、今年が後半は遠隔授業であったことを考慮すると、この授業に関しては、遠隔授業の方がうまく機能していることが伺える。今後どのような授業形式を大学から指示されるにしても、遠隔・対面両方の良い点を継続して行える授業形態を模索したいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

この授業を始めて、もう数年が経ち、授業内容は成熟期にさしかかると思えるが、文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そして次年度以降その研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと思う。達成状況としては、総合的には「やや達成」、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	加藤 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習 II	3	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実際の通訳現場で「使える英語」を身につけるためには、「リスニング」と「スピーキング」の「訓練」が欠かせない。授業ではこの「訓練」をするために、主に以下の通訳技術を教え、繰り返し練習をしてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイック・レスポンス</li> <li>・リテンションとリプロダクション</li> <li>・ディクテーション</li> <li>・シャドーイング</li> <li>・サイト・トランスレーション</li> </ul>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>前半の授業は対面であったため、一人一人の学習態度や意欲、理解度に気をくばりながら授業を進めることができた。一方後半の授業では、新型コロナウイルスの影響のため急ぎょ遠隔になり、対面でしていたプレゼンテーションの発表を動画で作成してもらうことになり、発表者以外の学生はその動画を見てコメントすることで、互いの学びに役立ててもらった。また、遠隔授業では学生の課題確認に多くの時間を費やし、発音や文法の質問があった場合には個人的に真摯に答え、特に質問がない学生に対しては次回の動画を通して全体にフィードバックをおこなった。遠隔授業でよかった点は、課題確認は大変だったものの、学生一人一人にしっかりと向き合え、それぞれの弱点や問題点を指摘し、修正することができた。「通訳」を学びたいというモチベーションがあるため、全体的に学習意欲の高い学生が多かった。そのため「到達度自己評価」の「知識を確認、修正したり、あたりに得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の欄では、比較的高い評価が得られた。また「授業の質評価」の項目でも平均して4.7の評価であった。授業で学んだ通訳技術や知識を英語全般の学習に活用して欲しい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

選択科目ということで、「通訳」に興味のある学生だけでなく、将来通訳者に限らず「英語」を何らかの形で仕事に活かしたいという志をもった学生が多かった。「英語」の能力や知識は、いろいろな職業分野で求められることが多く、この知識を将来それらの分野で活かし、さらなる見聞を広めて欲しい。そういった意味でも、カリキュラムマップにおいて、内容的な妥当性が見られたのではないと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業ではテキストで通訳技術を学ぶだけでなく、通訳場面を設定し、実践的な通訳練習をおこなった。授業で学んだ知識や技術を、ボランティア通訳など実際の場面で活用して欲しいので、そのような情報提供も今後していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「通訳」能力を身に着けるためには、授業だけの学習時間だけでは難しいので、学生それぞれに自分の弱点を把握し、課題を設定してもらい、その目標達成のために、しっかりとサポートしていきたい。学生の様子を注意深く見守りながら、できるだけ一人一人にあった授業内容にし、わかりやすい授業を常に心がけていきたい。学習意欲が高められるよう授業内容の向上にも努め、教材研究もしていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of the Media I course that students worked on in their first year, though it extends their skill level. The course initially took place in the iSwitch Mac room, 6208, and was supplemented with the use of our iPad devices. However, with the change to online classes mid-semester, we switched to doing lessons on Zoom. The students used their home PCS and also used their own smartphones as extension tools. During the course, they completed a wide variety of projects, such as research, using SNS, filmmaking, surveying, and storywriting - all in English.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Completion of Activities, and a Final Presentation. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 80.5% with the lowest being 64% and the highest being 97%. The standard deviation was 8.92.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Overall, the students covered the requirements of DP1, DP4, and DP5 well. This was a very motivated class because of the practical and creative nature of the classes. There was a strong collaborative and social nature to the activities, meaning that students could share their strengths and get assistance with their weaknesses.

This was also a class where they could show their creative side, and many of the projects they completed reflected this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

As we are likely to be online again this year, I will need make a few adjustments in the programme to offer students a greater variety of activities and a choice of which to do. With the advent of online learning this year, the possibilities of on-demand classes has become very real, and I'd like to implement these options. Basically, each class would revolve around a topic or skill area, there would be a workshop for students to take part in, and from there they could choose from a menu of relevant activities. I think this system would serve their needs better.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

One of the weaknesses in this class, because of the online system, is that it can be difficult to get a fair assessment of student skills. This will need to be taken into account this year, and with greater use of customised rubrics, this should be achievable. As the course is task- and project-based, there is definitely more scope for personal and peer assessment, and I hope to build these more fully into the assessment system. Many of the activities we do are either easy to self-assess because students can either complete or not complete them, or there is a creative element which they should have more say in self-assessing.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用時事英語	3	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期の時事英語入門と同様、難解というイメージが伴いがちな時事に、より深く興味・関心を学生に持ってもらうために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた内容や英語ニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。また、前期入門クラスとの差別化を図るため、比較的長い英文記事（主に社説）を取り上げ、応用クラスを受講しているという実感をもってもらえるような教材の選定を心がけた。また、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や発表なども行い、担当教員と受講者間で双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中20.2、定期試験の平均値は50点満点で35.6点であった。中間よりも定期試験の平均スコアが上昇しており、教育目標はやや達成されたと認識している。その一方で、他の担当科目でも生じた現象だが、本科目においても受講者間の能力差が大きかった。積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点の配点を超えて21.5という平均値が出ている。これはほぼ全員が毎回何らかの形で主体的に発表を行った結果である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生に対する質問の方法や担当教員からの発言に対して不快感を与えた点は猛省すべき点である。この点は前期の時事英語入門でも指摘されていた。質問の方法であったり、その後の学生へのフィードバックについては、できるだけ配慮したいが、自分の性格的な要因も否定できないので、その点もふまえて改善を図っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展していくという目標は達成できたと思われる。課題としては、前項目で言及したように、学生が快適に授業を受講できるような雰囲気づくりであったり、担当教員の「人間力」を向上させる取り組みが必要であることを痛感している。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「異文化間コミュニケーションⅡ」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。今年度は全ての授業が遠隔授業で行われるという環境下、履修生が40名弱であるという状況を踏まえ、オンデマンド形式（毎回70分程度の映像教材を作成し、学生に提供する方式）を採用した。映像教材は、主にパワーポイントにより作成し、「考える時間」「教科書を読む時間」「映像を視聴する時間」などを70分の映像中に組み込むことで、飽きずに視聴できるよう配慮した。映像を全て視聴した学生から送られてくる300字ほどの感想・疑問・コメントなどに対しては、一人ひとり個別の返信を送った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述から、達成度・満足度がかなり高い授業であったと判断される。特に自由記述の内容が非常に肯定的なものがほとんどであったことは、授業のデザイン・運営・実施がスムーズに行なったことの表れだと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業の進め方については、問題がないと思われる。学習者のアクティブ・ラーニングを引き出す授業をめざして、何ができるのか/何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本授業を担当することになって8年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業自体の質は向上してきていると考えられる。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エリア・スタディII	2	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focused on the ASEAN region to give students a better understanding of this region and its mutual importance with Japan. With research and presentations into a variety of topics, it was hoped that the students would learn in more depth about this region and be able to convey this information to their classmates through the presentations. It was also hoped that the students improve their ability to listen to presentations and to make further inquiries about the contents presented.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The goals of the course were well suited to fulfilling the DP requirements. With two thirds of the students receiving A or S grades, I believe that they were interested and motivated for this course. The amount of preparation they put in, as indicated in the feedback with the amount of time they spent on preparation and use of the internet for research, is evidence of this interest. Overall the course was successful, although it seemed to work much better during the face-to-face period rather than online. The period of online classes did, however, provide the students with the opportunity to improve their use of presentation software.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Fulfilling the DPs for this course was easy as it is a very international oriented course that has the students researching and presenting a lot of international knowledge. It is hoped that a sense of the international community and the role Japan plays in that community was realized by the students.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I believe that the high evaluation of the course, on average 4.5 or higher, and their amount of time and effort the students put into the course is a good indication of the success of this course. Although there was a lot of work for them to do, the majority of them rose to the challenge and did good work, as evidenced by the large number of high scores in the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, the course was a success. There were no major issues that would require any significant change to the course. Maintaining their motivation and continued effort throughout the semester is the biggest challenge.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、国際関係論の基本的な知識を身に付け、世界情勢を眺め、論じる際に依拠する「自分なりの視座」を獲得することを主たる目的とした。高校時代に世界史・日本史を履修していない学生も多かったので、国際関係史の基本的な事項の解説を含め、歴史の流れを理解してもらえよう努めた。</p> <p>ただ内容的に就職や資格取得に直接かかわるものではないため、事前学習や復習を促す動機づけに乏しかったようだ。来期は、世界の経済動向にかかわる内容を増やし、彼女らが興味を持っている業界や事象を積極的に扱っていこうと思う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>テストの平均点は73点、再試対象者は0人であり、本講義の目標である「国際関係論の基本的な知識を身に付ける」という目的は概ね達成できた。ただ、授業中に習得した用語や概念を使用して自身の考えを披露してもらった記述形式の問題の平均正答率は3割弱と押しなべて低く、「世界情勢を眺め、論じる際に依拠する自分なりの視座を獲得してもらおう」という第2の目標に関しては達成できなかったと自己評価している。その原因としては、国際関係云々のまえに、ものを書く技法・作法がまだ十分に身に付いていないことが考えられる。今年度は、最終試験以外にも、レポートなど一定の量を書いてもらう機会を設け、添削・寸評などのフィードバックを実施し、書く技能を身に付けてもらうよう取り組んでいく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 学習到達度の学生からの評価でも概ね肯定的な評価を得ることができた。4年生の学生からは、「専門分野は違うが、本科目で学んだ知見を卒業論文で活用した」との声や、NGOで活躍する学生からも「自分たちの活動の意味を考え直すきっかけになった」との意見をもらうことができた。これらの点からもDP・行動目標の観点からも妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から内容妥当性には問題がないと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べて、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感是否めない。今年度の授業では、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材をもとにして授業を進めていこうと思う。</p> <p>学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できていると評価できる。ただ、このような状況に甘んじることなく、受講生の達成状況がさらに上昇し、彼女らの知的興味・達成感をさらに満足させられるよう、講義内容を精査していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」50%であり、「関心のある内容」50%だった。このことから、一定の学生が目的をもって授業に臨んでいたことがわかる。さらに、「単位数を確保する」という動機は最も多く、100%を占めていた。ここからは、この科目から想像される内容が分かりやすく、かつ単位数を確保するために比較的取り組みやすい科目であると半数の学生が科目名から意識していたといえる。それらの想定を活かし、授業では、高校まで学習した内容とつながりを持たせながら、知識を深めることとしていた。②毎回確認テストを行い、学生や復習したり予習したりできるような時間を設けた。③昨年度は、授業過程を振り返ってみたとき、個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間が取れなかったことを改善点とした。今回はシラバスを一部修正し、個々のFBを授業時間内にできるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者はおらず、全員が標準的なレベルに達した。しかしながら理想的なレベルに達したのは7名と全体の12%ほどだった。学生による到達度自己評価においても、平均すると9割の学生が、自身の目標を達成できたことたえている。学生による授業評価においては、知識理解の観点と、技術を身に付けることに関する自己評価に差がある。これは、学生が授業における評価項目を十分に理解していないことも原因としてあげられる。次年度は、ルーブリック評価を用い、その基準を授業内の早い段階で示すこととする。そのことによって、知識のみならず、知識をどのように活用していくかについても重要であることを気づいてもらい、学習の指針としたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP上の位置づけ…本科目は、資格取得に役立つ科目であることに加え、高校まで培ってきた知識をさらに深める科目である。様々な目的の学生がいるため動機付けに苦慮したが、CPの位置づけを意識し昨年度同様授業作りを行った。②DPからの位置づけ…多くは、自分なりの目標を達成したと答えている。さらに、「知識を確認、修正したり、新たに得た」と評価した学生が多く、「さらに学びを深めたいと意欲を持つことができた」学生は100%だった。その結果、学生も一定の成績を取得している。③まとめ…以上のことから、内容的妥当性は担保したと判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度の反省から、予習復習を行いやすくなるような課題を設定することを工夫した。その結果、自由記述に見られるような個々の関心興味に沿って、さらに探求していくプロセスが自然に達成できたように思う。次年度も継続して行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間は取ることができた。Zoomによるブレイクアウト機能を用いて、個々の課題に対して全体で議論したり、グループで議論する時間を可能な限りとった。しかし、時折、何を議論しているか分からなくなってしまう学生もいたり、課題が後回しになってしまう学生もいたことが自由記述から分かった。毎回の授業はじめに、目標を具体的に示し、授業内で行うことを明確に提示しておく。さらに、授業後の課題を提示する際には、次の授業までの見通しを説明し、学生がさらに意欲的に取り組めるようにしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理 II	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「関心のある内容」37%、「単位数を確保する」が100%だった。このことから、昨年度Ⅰを履修している学生が引き続きの内容を想定して、履修したことが伺える。このような学生の学習準備状況を踏まえたうえで、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」からの連続性を持たせるために、毎回基礎的な知識を確認しつつ、それを応用した「Ⅱ」の内容に入るようにしていた。昨年度の課題であった、コメントシートの提出方法に関しては、遠隔授業であったことを活かし、GoogleClassroomでの提出に代えた。どの学生も円滑に提出することができ、フィードバックも行うことができた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者はおらず、出席不足による評価不能もいなかった。すなわち、全員が標準的なレベルに達したが、しかしながら理想的なレベルに達したのは5名と全体の10%ほどだった。学生による到達度自己評価においても、すべての項目で平均値4.5もしくは4.4であり、このことから、自身の目標を達成できたしていることが分かる。しかしながら、「情報利用」や「図書館利用」に関しては、50%の学生が利用しなかったと答えている。次年度も遠隔授業に移行したのちは、Web上で閲覧することができる文献サービスなども複数提示し、課題に含めることも考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPからの位置づけ…「I」に引き続く内容の「II」であるため、科目の連続性を大切に。「I」のシラバスで習得されたことを、授業初回に確認し、それらの知識を発展させながら、「II」に取り組んだ。さらに折にふれて、具体的な事例を示し、学問の考え方が日常生活と結びつくことを強調し、グループワークにより多様な考え方を引き出させた。②DPからは、「様々な課題を検討することができた」「的確に判断する力を得た」項目の平均値が4.5とあり、昨年度より大幅に上昇した。③まとめ…以上の理由から内容的妥当性を担保していると判断した。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として「特にする必要がなかったから」という意見があった。これについては、他の科目との関連性を見出し、科目の価値を位置付けるとともに、学生には自ら積極的に向かいたくなるような課題を工夫したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>昨年度よりも、到達度評価と授業の質評価の項目において向上している。これは、昨年度の課題をふまえて、学生に提示する課題を明確にしたこと、授業内での狙いを丁寧に学生説明できたからであろう。さらに、コメントシートからは、学生とのコミュニケーションをとることも重要であることが示唆された。来年度は遠隔で行われることがすでに決定しているが、できるだけ対面の良さを損なわずに遠隔授業の利点を活用しながら進めていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	大津留 香織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文化人類学	3	後期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、文化人類学の概要を示し、なかでも「文化相対主義」の理解を試みるため、いくつかの映像について鑑賞・評価・検討を繰り返しました。</p> <p>これは、学生自身もつ考えに気づき、そしてその考えが変化していく過程を経験することを狙いとしてしました。通常、「文化相対主義」を平易な文章で表すと、「他者理解」や「多様性」という抽象的な概念に集約されてしまい、そして「それらを大切にしなければならないとおもいました」という一般的な言説に落とし込まれることとなります。このような一般的な言い回しは、たいていの学生はすでに高校生までで身につけており、このようなテーマにはこのように答えておけば良い、と考えている大学生はたくさん見受けられます。</p> <p>「他者理解」や「多様性」というものの重要性は、むしろ「文化相対主義」が必要であると感じる体験においてのみ理解されるものです。そこで、疑似体験としてドキュメンタリー映像を鑑賞する、それについて学生がコメントを提出する、それを次回の授業でとりあげてシェアし、検討するという方法を実施しました。折しも新型コロナウイルスの影響によって、人々が集まることを制限されていたため、アンケートはgoogleフォームなどで実施しました。</p> <p>重要なのは、検討されるのが映像の内容だけでなく、自分を含めたクラスの学生たちのコメントであるということです。自分とクラスの学生たちと意見が違うことがあるということがはっきりとわかりますし、深くものごとを考えようとしている学生のコメントは、やはり感</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績については、熱心に授業に参加した学生と、そうでない学生との差が出たと思います。重要なキーワードと実際の状況とをうまく結びつけることができた学生は、課題の文章量が多かったです。期末レポートを忠実に解くこともまた、学びのひとつだと位置付けており、授業を通して学んだキーワードと実体験を結びつけることを採点基準にしていました。高度な表現はあまり散見されず、また熱心な学生ほど、むしろ文章表現においてはかたよりが出てしまうことが傾向としてあるので、その辺は普段の課題提出と照らし合わせて、点数を調整できるようにしていました。実体験アンケートの結果からは、学生たちに新たな分野について考えてもらえたようで、おおむねよかったと感じています。また個人的にもメッセージをいただいております。学内にはゼミがないが、文化人類学を何かの形で勉強したいと言ってくれた学生がいて、ありがたいと思いました。学内感染が起きてしまい、学期の途中でリモート授業へ変更され予定が大きく変わったので、それは学生たちに対して申し訳なかったです。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>アンケートからは「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」や「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」などが高い得点であったことが読み取れ、文化人類学という学問の狙いを達成していると思いました。必修でもないのに、授業にきてくれたり、課題に熱心に取り組んでくれたことを感謝しています。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方について、もう少し積極的に学生の意見を拾っていきたいと思いました。今回はGoogleフォームにて記述式の回答が多かったのですが、その紹介をもう少しスムーズにできたら時間が確保できるので、それがこれからの課題だと思っています。また当初ネットでの連絡がスムーズにいかず、申し訳ありませんでした、成績に影響はないので安心してください。</p> <p>また授業アンケートにありました、「提出日前日に課題内容が変わった」という指摘につきまして、説明しなければなりません。変わったのは「pdf形式で提出」という一文が追加されたことです。とっさに混乱をさせてしまった受講生たちがいたら申し訳ありませんでしたが、事前にレポートに取り組んでいただければ、保存形式を変更するだけでよいのだと理解してもらえとおもいます。締め切り日が来る前に、すでに4分の1ほどの学生がWORD形式で提出してくれていましたが、その人たちのうち半分が形式だけ変更し再提出してくれています。つまりこの回答からは、どの時点でレポートを書き始めようとしたのかがわかってしまうのです。授業では、当然ですが授業に出席していないと得られない重要な情報を発信することがあり、重要であればあるほど公開を慎重にしております。事前にわかる日程変更などは、基本的には授業の最初と最後の2回くりかえすようにしており、これはリモートという反応がわかりにくい授業では特に意識的におこなっておりました。期末レポートの課題にいたっては1ヶ月ほど前から毎回公開し、説明していたはずですが、もちろん完全にはわからないこともあるとおもうので、直前の変更という重大なことが起こったと感じたら、その次の授業で抗議をしてくれて大丈夫です。この授業では</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>この授業は本教員が海外で専任講師として雇用されるという事情があったため、補講をとることで3週間分早めに授業を終えました。そのためアンケートの回答数が少なく（これは途中リモート授業に切り替わったという理由もあるかもしれませんが）、受講者からの評価を判断することが難しくなっています。もう少し受講生の意見を知りこれからの授業の参考にしたかったのですが、個人的に授業の狙いはおおむね達成されたと考えています。そもそも文化人類学は、「自分（自文化）を疑う」というところから出発し、それまで理解できなかった他者の世界観や主観に入って行くという学問です。それはつまり「自分の信じている分野を疑う」こととなりますし「自分の幸福な世界を不安定にする」ことにもなりますから、短期間で「役にたった」という感覚を得ることはまずありません。数ヶ月の授業間に、何の役にたつかわからないようなものに付き合うやる気は出にくいとおもいます。「世界を別の視点で見るということは、簡単なようでいて、本当に困難なんだ！」という人類学の入り口は、基本的には外側から強制でぎず、自分次第なのだという点も、受講へのモチベーションを減じるかもしれません。「これさえすれば（理解すれば）大丈夫」ということを、文化人類学は特に戒め、常に「そうじゃないかもしれないよ」と囁くからです。教員は「そうじゃないかもしれないよ」と囁きつつも、やる気が低下しないように励ましたり楽しませたり努力をします。ただ教育の場で実際に困難なのは、受講生があらかじめ「世界は（自分は、他者は）こうだ！」と言えるくらいの体験をしておかなければ、「そうじゃないかもしれないよ」と囁くことさえできない、ということです。そこでドキュメンタリーなどの映像を用意し、疑似体験をさ</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2	後期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業実施にあたり重点に置いた点は、学生の目標（希望の職種）を達成するために、企業が求める人材とはどのような人材なのかを理解させ、それに見合う人材になるための基礎的な知識と実務に注力しました。</p> <p>②受講動機は回答者総数45名中「関心ある内容である」が30名と高く、学生の就職に対する意識の高さが伺えました。</p> <p>③コロナ禍にあって、何を今、学生は身に付けなければならないのか、リモート面接の注意点、1分間スピーチの実施、面接チェックシートを利用し面接官の評価方法を伝え、対面面接での注意点も具体的に伝えました。</p> <p>④学生生活から社会人（企業人）への意識改革が必要であり、意識を7つのカテゴリーに分けて解説をし、気付いた点、なるほどと感じた点等、レポートを提出させ、深い理解を促しました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①到達度学生自己評価においてDP10項目中8項目が中央値より高かったため、『やや達成された』にしました。</p> <p>②DP「知識を確認、修正したり、新たに得る事ができた」中央値が5.0と高く、平均値が4.5であった。DP「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学べた」中央値5.0とこちらも高く、平均値が4.4。結果『やや達成された』としました。</p> <p>③学生自由記述より「日常生活の中で所作や動作の復習をした」「バイトで気にして言葉や動作を行っていた。立ち方など」「学んだことを実践して復習した」「敬語の使い方など復習しました」他多数。学習したことを実生活で使うことが復習に繋がり、自分自身の品格をも上げることに気付いてくれたものと理解しています。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①「到達度学生自己評価」においてDP10項目中8項目が中央値より高く、平均値が4.1~4.5と高いと思われます。</p> <p>②学生自由記述より「社会に出てから必要な知識を学べた」「秘書検定を受験する際に、参考になることがたくさんありました」「現在の私だけでなく、これから先でも必要な知識を学ぶことができました。授業で使用した教科書は大切にとっておこうと思います」</p> <p>③まとめ、上記から、内容的妥当性に問題はないと思われます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学生自由記述より「お礼状を書くとき、どういう状況で誰に何を書けばよいのかが曖昧だったので、より明確にしてほしかった。よく分からない状況の中で書いたので、できれば何かコメントや添削したものなどをしてもらいたかった」課題公開の時期のミスにより、学生に混乱を与えました。横書か縦書きか、課題も2種類からの選択になり、わかりづらかったものと思われます。Google Classroomをより適切に使えるように改善いたします。また添削などのフォローもいたします。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①対面授業の後ろリモート授業に変更になり、学生の評価方法はレポート提出・敬語のテスト・お礼状作成・1分間スピーチで行いました。2021年度もリモート授業の予定であり、学生の評価方法を今年度同様に工夫いたします。</p> <p>②「到達度学生自己評価」「授業の質評価」において、中央値よりほぼ高く評価されているため、基本的な授業内容は継続していきたいと思えます。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	梅田 勝利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>企業のグローバル展開を支えるグローバル人材の育成という観点から、英語と会計という2つの言語の習得は必要不可欠となっている。本授業では英語同様に会計（ここでは会計処理）ができるようになることを意識して授業を実施した。受講動機によれば、単位数確保が圧倒的多数である。しかし、会計の知識・技術の習得の必要性に気づき、簿記に関心をもつ学生が少なくないため、具体的事例を用いて授業を展開した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価および授業の質評価の中央値がともに4.0であったことから、ある程度達成されたと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価および授業の質評価の中央値がともに4.0であったことから、内容として妥当であったと考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>受講者の約半数は予復習をしていない。理由として、受講動機では単位数確保が圧倒的多数であり、資格取得を目指す学生もほとんどいないことが考えられる。予復習をしたくなるような工夫（例えば、課題を事例研究にするなど。）をしていきたいと考えている。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>概ね達成できたと考えている。</p>
-------------------------------	-----------------------

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ボランティア演習	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門教育科目の地域貢献・国際貢献科目で、2年次後期の科目として位置付けられている。それまで身につけた英語運用能力や国際理解力を用いて、自分が国際社会に貢献できることは何かを考え、実行することができるように授業内容を組み立てた。グループワークも多く取り入れ、コミュニケーション能力や他と協働できる力を高められるようにした。また、日程設定に苦慮したがカンボジアの学生と互いの文化や社会についての発表の機会も設けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準レベル以上の成績を納め、再試対象者もいなかったことから、教育目標は概ね達成されたと考える。到達自己評価も、1、2名の学生を除いては、すべての項目において全学生が肯定的な回答をしていて、学びの実感もある程度はあったと考える。また、昨年度に比べ「かなりそうだと思う」と回答する学生がかなり増加しているので、学生の自己評価は高まったと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目の地域貢献・国際貢献科目の選択科目である。2年次前期までに身につけた英語運用能力や異文化理解力等を実際に使いながら身につけていくということからも、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が標準レベルを超えており、該当DPについての能力を高めることができているので内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価について、1名の学生が「少しそうでないと思う」と回答した以外は、全ての項目について肯定的な回答となっている。昨年度の反省に基づいて、予定していた内容もあったが、遠隔授業となったため、急遽予定を変更して実施せざるを得なかった部分もあり、学生には不便をかけたところもあったと思う。カンボジアの学生との交流については、互いの予定を合わせる事が難しかったり、予定していた通りにいかない部分もあり、急な変更を余儀なくされる場面もあり、その点については指示や連絡を徹底するようにしていたが、届いていない学生もいたようだ。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>様々な制約があり実施が難しい演習もあるが、できる限り学生が主体的な学びを得られるような場面を作れるように工夫し、一定の目標は達成できたと考えられるが、まだ改善点も多く、内容や方法について再検討を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
児童英語教育研究	3	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職を希望する学生にとっては必修となっているが、選択科目でもあるため、教職希望者15人、選択その他の理由による登録者が20名であった。ただ、殆どの学生が前期の「児童英語教育入門」に引き続き登録しており学習意欲・関心が高いと想定された。そのため後期の本授業では、前期内容と関連付けながら説明し、より具体的な内容を体験できるように計画した。シラバスの項目については、前期同様、文部科学省のコア・カリキュラムを参考にしてバランスのよいものとした。</p> <p>②昨年度のリフレクションカードによる実態から、課題についてインターネットを利用したり、より一人ひとりの関心が反映されるような内容となるようにしたりした。</p> <p>③途中から遠隔授業となったが、発表課題をペアやグループでなく個人での取り組みとすることで、一人ひとりの実践的な学習の場は確保するようにした。また、発表課題は、「模擬授業」であったが、事前に説明を丁寧に行い、教職志望者でない学生にも配慮した。毎授業後、「リフレクションシート」を提出することとし、学生の理解や興味関心を把握するとともに、個人が自由に質問できる場を確保した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①レポート課題の提出、発表課題への取り組み、リフレクションシートの提出において、ほとんどの学生がきちんと取り組んだ。途中から遠隔授業となったが、学生は特に混乱なく落ち着いて授業に参加していた。レポート課題においては、26/35人が期限内にすべて提出し、27/35人が80%以上の結果であった。また、発表課題でも、短時間での模擬授業発表で難しさがあったが、教材選択や提示において工夫して取り組んでいた。毎授業後のリフレクションシートにも授業内容を反映して各自の課題と照らし合わせる記述が多かった。</p> <p>②全体の成績については、平均が80/100点、そのうち100～90が8人、89～80が13人、79～70が7人、69～60が6人、再提出にて及第が1人となった。このばらつきのある主な原因は、課題を正しく理解できていないことが散見されたこと、期限内にきちんと提出できなかったための減点であった。そのため、全体としては、意欲・関心・態度において達成されているが、一部努力を要する学生の存在があった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は教職関連科目であるが、「選択科目」であることから、教職志望者以外に、単位取得を目的とする学生も履修している。そのため、学生の意欲関心を高めるためには、身近が問題を取り上げたり、自身の英語学習体験を想起する機会を作りながら授業を進める工夫が必要であると考えられる。一方、本年度は、上記前述のとおり、教職志望者は、15/35名であったが、本学科の学生は、平成29年版新学習指導要領に明記されている「英語が堪能な地域の人材」として、地域の小学校などで英語教育に携わる機会が期待されることから、本科目受講により、児童英語教育に携わる上で前向きな態度を育成することが求められる。その点を考慮したシラバス構成をしているが、学生による「授業の質評価」において、すべての項目の中間値が5.0、平均も全て4.2以上であったことから、学生にとっても学びの場として受容されていたと判断できる。また、「到達度自己評価」において、中央値がすべての項目において4.0、平均値が4.0以上であったことも、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②発表課題における高い取り組み意欲と達成度、学生同士の学び合う雰囲気、上級生のリーダーシップ（この場合は、3年生に対する4年生の態度）が、顕著にみられ、授業全体の雰囲気を盛り上げていた。今回の課題設定は、その点でも妥当であったと考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①毎授業において、テーマに沿ったワークシートを配布し、解説を加えながら授業を進めた。遠隔となり技術的な難しさが多少あったが、その都度学生からの報告や提案によって改善することができた。また、遠隔授業という状況を積極的にとらえ、発表課題においては創意工夫のある課題提示が見られ、感心することが多かった。学生は、毎授業後のリフレクションシートに、授業でのポイント、質問や提案、各自の考えなどを記していたが、毎回一人ひとりに返信したことで、学生とのコミュニケーションの場となった。自由記述において、「リフレクションシートへの教員からの回答が授業参加の励みとなった。」と学生から好意的な反応を得た。本教科は選択科目であり、受講した学生の動機は異なるが、学生が最後まで興味を持って学びを深める上で教員側ができる支援の在り方を学ぶ機会となった。今後も続けたいし、遠隔授業であることで、対面授業時以上に充実できた点だと感じている。</p> <p>②遠隔授業ではあったが、授業に参加している間、クラスルームが「居心地の良い場所」となるように、近況や体調を尋ねたり、自学の時間を設定して、長時間聞くだけの授業とならないように工夫したりした。</p> <p>③期限厳守や発表期日厳守など、事前に説明していたが、ごく少数ではあったが、遅れたり変更したりする必要のある学生がいた。その際、評価においても同等にはせず厳正・公正に評価したが、当初の想定外であり、第1回授業において説明が不十分な点があった。今回、自由記述において、評価について疑念を持った学生がいたことがわかった。次年度は、この点について初回授業において明確に説明を行うこと</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①教職関連科目であり、資格取得のための必修教科として受講している学生と、単位数確保のために受講している学生が混在しており、授業内容に対する興味・関心が異なるという難しさがある。一方上記前述したように、平成29年版新学習指導要領に明示してある通り、今後、本科学生が「英語の堪能な地域の人材」として、小学生の英語教育に関わっていく可能性は高い。そのことを踏まえ、コア・カリキュラムに示された項目を中心として、小学生に英語を教える上で学ぶ必要のある内容を、学生が興味を持って学べるように工夫することで、地域社会に貢献できる人材育成の一助となるように努めたい。また、そのために、授業において、遠隔であっても、クラスルームでもともに学ぶ一体感を感じられるような授業運営を行いたい。その上で、学生一人ひとりが参加意識が持てるよう、リフレクションシートを活用してコミュニケーションを図ることを続けたい。</p> <p>②学生は、ワークシートや資料をプリントアウトしたものを手元に準備して授業に参加することとなるが、可能な限り精査してページ数の適正化に努めたい。</p> <p>③本学学生は、クラスメートとして互いに対する肯定的な態度が身に付いており、学び合いが学習成果にも好影響をもたらしていると感じている。これは、本学入学以来の、先生方と学生との関わり、学生間の関わりにより身に付いた価値ある態度であり、学生にはそのことに自信を持ち自身の学びの在り方として内在化させてほしいと願っている。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Recently, Project-Based Learning (PBL) has become a popular focus for language learning. Using this approach, students in this zemi worked on projects in English that had a specific goal. For this seminar, we used Sustainable Development Goals (SDGs) as a focus for their learning. Students researched the different SDGs and gave presentations on them, and then examined projects around the world aimed at reaching the goals of the SDGs. Each week, we would focus on one issue using presentations, guided research, discussions, and project planning. This was an exceptional seminar group, and all students produced excellent work.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This was a very focused group who completed their work very competently. Almost all of them had completed six months study abroad, so not only were their English levels high, but they had a strong world sense. All students in this seminar class worked extremely well together, even though we were hampered by not being able to study as planned due to being online. We collaborated together to formulate a new set of goals and objectives, and the students worked very well to achieve them. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

As stated above, this group has basically no weaknesses, and have excelled in working towards all DP goals. All targets set by this class were very competently attained.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

With the move back to online classes for the start of semester 2, we were able to start exploring some of the areas that had been planned for the first semester. Extremely unfortunate that we had to return to online, though they are working well together. Hopefully we will return to a degree of normalcy in our classes this semester.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Assessment for this class is based around the students' own self-assessments and peer review. For the second semester, we ended the term once again with the students all submitting a self-evaluation video which they shared with the class. This approach is transparent and collaborative, so there is no need to implement any changes in the foreseeable future.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動では、挨拶やマナーなど社会人になるための基礎的な素養に加え、活動を通じた社会人基礎力の育成を目指した。毎回担当者はプレゼンテーション資料を期限までに作成し、ゼミ生の前で発表する機会を設けた。ひとり一人が仕事を分担し、責任感や協調性、リーダーシップなどを身につける機会とするよう心掛けた。また、卒業論文のテーマについても検討を始め、学生間での意見交換や自身の論文検索・要約などを進めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.7、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.7、「説明は理解しやすい物であった」は4.7、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.7と概ね良好であった。</p> <p>学生の意見として、「一人一人丁寧に対応してくださったので、授業中の発表や自分で企画したプロジェクトに対して失敗を恐れることなく挑戦することができました。特に、プレゼンテーションやマナーについてなど社会で役に立つ内容が多く、どれも興味深いもので、学びの多い有意義な時間だったと実感しております。来年も精一杯がんばりますのでよろしく願いたします。」などがある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.7、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.6、「職業選択の参考になった」は4.7と概ね良好であった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの人間力、マナー力や社会人基礎力の育成に尽力する。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流やNGOとの協働等を学生自らが体験出来る機会を設けた。遠隔授業であることを活かして、海外の学生との討論なども実施することができた。</p> <p>"</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>授業での発表、レポート等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、二つの項目について1名の学生が「少しそうでないと思う」と回答していることを除いてすべての学生がすべての項目について、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していることから、目標は達成できていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が肯定的な回答であり、そのほとんどが「かなりそうだと思う」と回答している。遠隔授業のため、討論がやりにくい部分もあったが、互いに徐々にやり方や雰囲気慣れ、スムーズに進行することができた。 図書館を利用することはできなかったが、折に触れてインターネットで情報を収集する方法等にも触れたので、ほとんどの学生が授業でインターネットを活用できていた。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施し、インターネットでの情報収集については昨年度より改善が見られるが、まだ十分とは言えないので、さらに改善していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると当たり前ながら「必修科目である」100%であった（この質問にこの選択肢はできればアンケートとして改善していただきたい）。他は「関心のある内容」62.5%、「単位数確保」25.0%、「友人が履修」12.5%である。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③春休みの課題を出し、卒業論文のウォームアップへと繋げた。④就職課と連携し、グループ面接の練習をしてもらうなど、4年次から就職活動を具体的に開始した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、A44.4%,B33.3%,C22.2%である。ほぼ全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだが、やや欠席が多めの学生もいた。学生の到達度自己評価によると(1)4.0(2)4.5(3)4.3(4)3.9(5)4.3(6)4.0(7)4.3(8)4.1(9)4.0(10)3.8でばらつきがある。しかしながら、やや欠席が多めの学生でさえ、ゼミに来た日は準備をきちんとし、有用な意見を発表するなど積極的に参加していた。そこで上記のすべての項目において「やや達成された」と評価したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>自由記述欄には、8名中6名の学生がたくさんポジティブな意見を記入してくれた。授業内容のことに関しては、「ゼミで、ニュースを調べるようになって、以前よりニュースに関心を持つようになり、ニュースを見たり、調べたりする機会が増えた」や「小説を読んだりニュースを見たりすることが増えたことで、自分の価値観や考え方が変わった、ゼミのみんなとコミュニケーションすることが多かったので、人の意見や考え方から刺激を受けることがあった」などの意見があった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持させる他、ゼミの授業の中でTOEICの勉強の時間を設けるなど、将来的に取り組んでみたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The goal of the course was to set the groundwork for next year's graduation thesis. To achieve this it was hoped to examine issues in greater detail and to prepare the students with more detailed research activities and reporting, both in collaboration with others and individually.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>For the most part the students took on the challenge and proved adept at completing the coursework. DP 3 and 4 were particularly well received, as can be substantiated with their participation, the work they submitted, and their resulting grades. DP2 was of particular importance for this course as we need to improve this for next year's graduation thesis.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The general goals of the course provide plenty of opportunities to work on the various DPs. The course sits well within the curriculum map as it works to integrate the various elements that the students have been working on until this point and synthesizing them in preparation for their graduation thesis in the following year.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This year's group of students were particularly well motivated and suited to the course. Their active participation and collaborative spirit helped to make this course a success. The return to online classes was smooth, but in general the course benefits greatly from being face-to-face. Finding a way to make the course more online friendly is one way of improving the course, even though the students did rate the course highly.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

There are no particular complaints for the course. As the group dynamics of the course depend greatly on its members it is hoped that next year's students will be able to work together as well as this group. Providing more research opportunities and corresponding support is one area that I would like to improve for the future.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (5/40) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 89.40%, with a high of 100% and a low of 62%. Standard deviation was 12.0.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still online next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension II	2	通年	必修	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course follows on from the Year 1 English Extension I course. Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (8/40) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 87.90%, with a high of 100% and a low of 60%. Standard deviation was 13.0.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still online next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension III	3	通年	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course follows on from the Year 2 English Extension II course. Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students except 2 (failed due to non-attendance) who participated in the programme received passing grades, with a large number (5/54) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 84.2%, with a high of 100% and a low of 60%. Standard deviation was 15.6.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still online next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした</p> <p>②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。</p> <p>③おそらく初めて哲学的・教育学的思考に挑むので、わかりやすい説明を心懸け、レジュメにも前年の反省点を踏まえて改訂を加えた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>記述式の試験であるし、内容も毎年異なるので、点数での比較は難しい。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」にかなりの数字が入っているが、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのが若干いる。おおむね授業は楽しんでもらったが、一部に全く理解できなかった学生がいることも確かである。しかし、それは少数なのでおおむね、学んだ実感は与えたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体的に良好であった。来年も維持できるようにねいな説明と対話に心懸けたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○学科平均点75.1点、全体平均点78.1点。秀4人（19.0%）、優5人（23.8%）、良3人（14.3%）可8人（38.1%）、不可1人（4.8%）。SD16.4。</p> <p>参考：昨年度平均点64.1点、秀0.0%、優9.1%、良7.7%、可53.8%、不可27.3%。</p> <p>○昨年度と比較して平均点10点、秀と優も10ポイント程度増加している。増加分は可の減少分であり、全体的に成績が向上したといえる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>○全体平均と同程度の学科平均となり、昨年度のような学科格差は解消された。ただし良と比べて不可の割合が高く、本来は逆転していることが望ましい。</p> <p>○成績対象外ではあるが中間試験を導入したことで本試験の成績が向上したと考えられる。ただし選択肢を細かい条件で判断しなければならないような設問や学習内容を踏まえた応用的な設問に対応できない学生も少なくなかった。知識をどのように応用することができるのかという例題の提示が不足していたかもしれない。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>○本年度はある程度満足できる結果となった。次年度は可を減らし、良を増やして学科全体の学力の底上げを図りたい。</p> <p>○次年度は教員養成のカリキュラム改革によってシラバス内容の一部が変更される。より多様な内容を取り上げることになるため、知識が細分化されないように横のつながりを意識した授業を行いたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。</p> <p>④オンラインの試験で前年は知識のみを問う選択式にしたが、「教育課程論」としての〈知〉には至らなかったと思い、今年は創造的契機を喚起する形式にしてみた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>試験の成績は決してよいものではなかったが、試験前及び再試験前のやりとりで多くの学生と学びの質を深めることができた。</p> <p>また、独自の方式の試験にしてみたので、他年度との比較はできない。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」にかなりの数字が入っているが、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのが若干いる。おおむね授業は楽しんでもらったが、一部に全く理解できなかった学生がいることも確かである。しかし、それは少数なのでおおむね、学んだ実感は与えたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今回はA4で9頁になった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体的に良好であった。来年も維持できるようにねいな説明と対話に心懸けたい。試験方法については再考したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分がが多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう努めたが、遠隔授業では難しい部分もあった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名で、ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、1名が一つの項目について「少しそうでないと思う」と回答している以外は、すべての項目について全員が肯定的な回答しており、ほとんどの学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。この点からも教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、1、2名の学生が三つの項目について「少しそうでないと思う」と答えている以外はすべての項目について「まあまあと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。しかし、「説明は理解しやすいものであった」という問いに対して「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。遠隔授業でも学生に学修内容がわかりやすく伝わるように工夫したが、伝わりにくい部分もあったのだと思う。また、「授業中に、自分の意見をまとめる、話しあう、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という問いに対して「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名いた。発言を求める機会は、ほぼ毎時間何らかの形で意見等を聞く機会を設けたが、十分だと思わない学生も2名いたので、発問の仕方を今後は工夫したいと思う。質問できる時間を毎回設けていたが、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という問いに対して「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。文書での質問を受け付けることを特に強調はしなかったので、来年度からはそのことにも授業中に触れたいと思う。一方で、学習量の評価については、ほとんどの学生が復習はほぼ毎回行っているが、予習に関しては毎回行っている学生と、時々しか行っていない学生と、ほとんど行っていない学生がいることがわかった。予習も復習も指示はしているが、復習についてはレポートとして提出しなければならないので、じっくり時間をとって取り組んでいる学生が多いのだと思われる。予習についても、授業中に予習したことを確認できるような形にすることでより多くの学生が取り組みや</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>予習や復習の状況が十分でない学生がいる一方で、予習や復習のみならず授業の課題以外の課題に取り組んでいる学生も4割ほどいた。最終的な成績は、概ね良好であり、予習や復習に問題のあった学生も最終的には標準的な理解に達していると考えられる。授業の課題以外についても質問や相談をしてきた学生もいて、授業の内容にとどまらない発展的で総合的な学びに繋がっている状況もある。この科目は「英語教科教育法II」「英語教科教育法IV」へと続いていくので、今回明らかになったことを踏まえ、授業の方法について工夫していきたいと思う。</p>
-------------------------------	--